



D3Worker 操作マニュアル

Ver.1.2

改訂履歴

Ver.	改訂日	改訂内容
1.0	2019/04/01	新規発行
1.1	2019/10/30	製品アップデートに伴う項目名や画像等の最新化、および全面的な表記改善
1.2	2020/03/18	製品アップデートに伴う機能説明の追記、画像の最新化

本書に記載されている会社名、製品名、サービス名などは、提供各社の商標、登録商標、商品名です。
なお、本文中に TM マーク、©マークは明記していません。

本書の使い方

本書は株式会社オプロが提供する「D3Worker」の操作マニュアルです。

本書をご利用いただくことで、D3Worker の概要と設定の流れを理解し、さらに帳票テンプレートとワークの設定、CSVを組み合わせて自動で切り替えて配送するなど様々な連携ができるようになることを目的としています。

本書の表記

本書では、次の表記で記載しています。

表記方法	内容
注意	操作上の注意事項について記載しています。
Point	操作するうえで知っているると便利なポイントについて記載しています。
参照	本書における参照先を記載しています。
[]	ボタン名やタブ名、キーボードのキーなどの表記で使用します。
「 」	システム名、メニュー名、画面名、項目名、参照先などの表記で使用します。
{ }	条件によって異なる名称や文字列が入る可変値の表記で使用します。

目次

1. はじめに	5
1.1 利用条件.....	5
1.1.1 ご利用の前に.....	5
1.1.2 データ形式.....	5
1.1.3 データ容量.....	6
1.2 利用環境.....	6
1.2.1 マスタの設定.....	6
1.2.2 処理結果の確認.....	6
1.2.3 データアップロード.....	7
1.2.4 サポートサイト.....	7
2. D3Worker でできること	8
2.1 機能概要.....	8
2.2 連携方法.....	8
3. 設定の流れ	10
3.1 ログイン・ログアウト.....	10
3.2 サービス・エンベロープ・ワークとは.....	12
3.3 サービスの設定.....	13
3.3.1 OPROARTS を設定する.....	14
3.3.2 メール送信（SMTP）を設定する.....	17
3.4 エンベロープの設定.....	23
3.5 ワークの設定.....	30
4. 実行	37
4.1 CSV ファイルで D3Worker を実行する.....	37
4.2 CSV ファイルとファイルで D3Worker を実行する.....	38
4.3 実行履歴の検索.....	40
5. 組み合わせパターン	42
5.1 1つのテンプレートとワークで、送信先を切り替える.....	42
5.1.1 メールを1通送信する.....	58
5.1.2 メールを2通送信する.....	60
5.1.3 メールと Cloud Print を送信する.....	62
5.2 マルチテンプレートで送信する.....	64
5.3 切り替えフィールドによるマルチテンプレートで送信する.....	71
5.4 複数回文書化して送信する.....	77

1. はじめに

D3Worker の利用条件と利用環境、注意事項について説明します。

1.1 利用条件

D3Worker の利用条件と受け渡し可能なデータ形式、データ容量の制限について説明します。

1.1.1 ご利用の前に

D3Worker は、次の URL で公開している「OPROARTS 提供条項」に同意していただいた場合のみご利用できます。
http://www.opro.net/support/agreement/oproarts_agreement.html

1.1.2 データ形式

D3Worker とサービス間でデータの受け渡しが可能なデータ形式は次のとおりです。

■ D3Worker が受付可能なデータ形式

項目	説明
ファイル形式	CSV のみ (TSV 不可)
文字コード	UTF-8、またはシフト JIS
ファイル数	1 リクエストで利用可能な CSV は 1 ファイルまで

Point

- 上記以外のデータを入力ファイルとして取り扱いたい場合は、別途ご相談ください。

■ D3Worker から引き渡し可能なデータ形式

後続処理へ CSV を引き渡し可能なサービスの場合、次の形式でサービスへ引き渡されます。

項目	説明
ファイル形式	D3Worker に CSV で入力された場合、CSV 形式で出力
ファイルフォーマット	データ連携される CSV フォーマットは、内部処理で RFC4180 に準拠した CSV として出力
ファイルの項目名	ワークの「文書とデータのマッピング」で設定した項目名をレコードの先頭に付与

1.1.3 データ容量

D3Worker では、1 回のリクエストで指定できるデータのデータ容量は、お客様のご契約内容によって制限があります。ライセンスごとのデータ容量制限は以下のとおりです。

機能	Bronze	Silver	Gold	Enterprise
1 リクエストの受付データ容量（最大）		20MB		100MB
同時処理数		1		10

1.2 利用環境

D3Worker は、通常、本番環境のみのご提供です。

ただし、ご契約内容によっては、以下の例のように複数の環境をご提供させていただく場合がございます。

例：

- ・ドキュメント出力のサービスを共通化することでカウント対象を一元管理し、配送用マスタを個別の環境に設定する。
- ・当社がご提供する帳票作成サービスをご契約で、当社が帳票を作成する場合は、テスト用としてドキュメント出力の環境を別途設定する。

また、D3Worker ではマスタの設定環境と処理結果を確認する環境、およびデータアップロードのリクエストを行う環境が URL で提供されます。それぞれ該当する URL に接続し、操作します。

Point

- ・ VPN 環境や Private をご契約の場合は、別のドメインでのご提供となる場合もあります。

1.2.1 マスタの設定

マスタの設定を行う際には次の URL にアクセスします。

<https://d3w.ap.oproarts.com/d3w/a/{お客様用テナント}/>

Point

- ・ 「お客様用テナント」とは、お客様ごとに当社がご提供する D3Worker の環境です。「お客様用テナント」には、英数字・記号（アンダーバー）が設定されています。実際の設定にあわせてください。

「OPROARTS 提供条項」の第 5 条 2 項で定める返金規定の対象となります。

1.2.2 処理結果の確認

処理結果を確認する際には次の URL にアクセスします。

<https://d3w.ap.oproarts.com/d3w/a/{お客様用テナント}/history/>

Point

- ・ 「お客様用テナント」とは、お客様ごとに当社がご提供する D3Worker の環境です。「お客様用テナント」には、英数字・記号（アンダーバー）が設定されています。実際の設定にあわせてください。

1.2.3 データアップロード

D3Worker へのデータアップロードをリクエストする際には次の URL にアクセスします。
<https://d3w.ap.oproarts.com/d3w/a/{お客様用テナント}/al/facade/upload.html>

Point

- 「お客様用テナント」とは、お客様ごとに当社が提供する D3Worker の環境です。「お客様用テナント」には、英数字・記号（アンダーバー）が設定されています。実際の設定にあわせてください。

1.2.4 サポートサイト

製品に関する FAQ の検索や直接お問い合わせを受ける、サポートサイトを用意しています。

サポートサイトのご利用方法については、次の URL を参照してください。

https://www2.opro.net/jp_arts/HowToUseOPSS_arts.pdf

Point

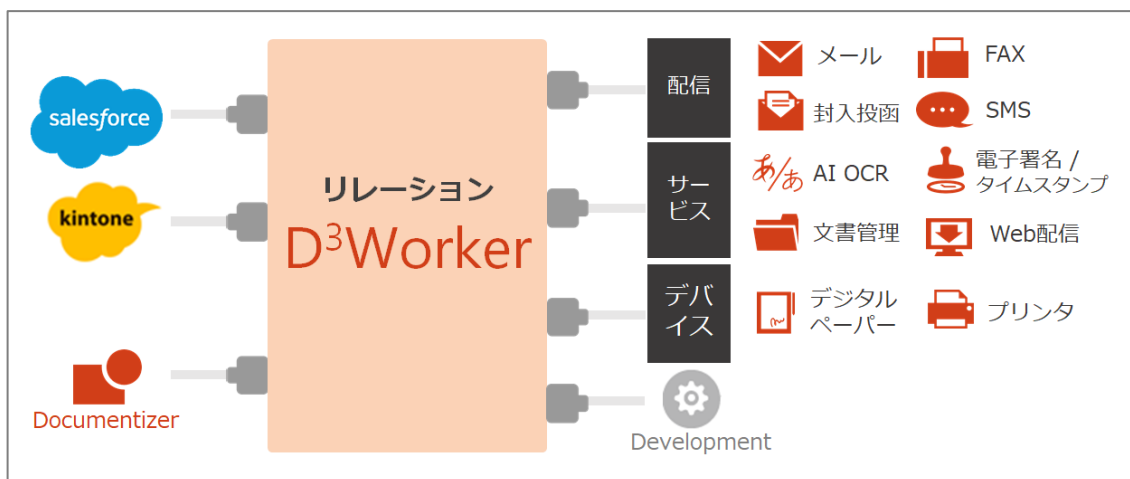
- ご利用の際に必要な「CID」と「パスワード」は、担当者宛てにメールにてお知らせします。
※担当者とは、ご契約時に記入いただく「ライセンス登録用紙」に記入された方になります。

2. D3Worker でできること

D3Worker の機能概要と連携可能なサービス、連携例について説明します。

2.1 機能概要

D3Worker は大量データの処理を自動化するマルチクラウド基盤です。プログラミングの知識がなくても、設定することによりデータを簡単に仕分けし、文書化することができます。文書化されたデータはメールや FAX で配信するだけでなく、ストレージサービスに保管し、電子配信サービスや電子契約サービスに送ることもできます。



2.2 連携方法

D3Worker で想定される連携方法について例をあげて説明します。

■ 手動アップロード（Web 画面）から文書を配信する

D3Worker は、標準で Web でのアップロード画面を提供しています。アップロードを行う CSV のレイアウトや出力対象のサービスが決まっている場合は、この画面から CSV ファイルと処理対象のワーク名を指定するだけで、連携できます。

■ ViewFramer と連携して文書を配信する

当社が提供している ViewFramer との連携を行うと、プログラミングをすることなく Salesforce や kintone などのクラウドシステムと連携できます。

開発コストや開発期間を大幅に短縮でき、後から設定を変更することもできます。

【参照】 ViewFramer の設定方法については、「ViewFramer ファーストステップ」を参照してください。

- Web アプリケーション（Prime アプリ）と連携して文書を配信する

当社が Web アプリケーションの開発を行うことにより、非常に高度なデータ取得や、他システムとの連携、絞り込み、大量データに対応できます。

- WebAPI を利用して文書を配信する

D3Worker で提供している WebAPI へリクエストすることで、各種基幹システムや独自のクラウドシステム、Web アプリケーションとの連携ができます。

3. 設定の流れ

D3Worker を利用するために、「サービス」「エンベロープ」「ワーク」を設定します。
各設定の流れや画面について説明します。

3.1 ログイン・ログアウト

D3Worker 設定画面へのログインとログアウトの手順を説明します。

■ ログイン

1. D3Worker ログイン用 URL へアクセスします。

URL :

<https://d3w.ap.oproarts.com/d3w/a/{お客様用テナント}/>

※{お客様用テナント} : お客様ごとに英数字・記号（アンダーバー）が設定されています。

実際の設定にあわせてください。

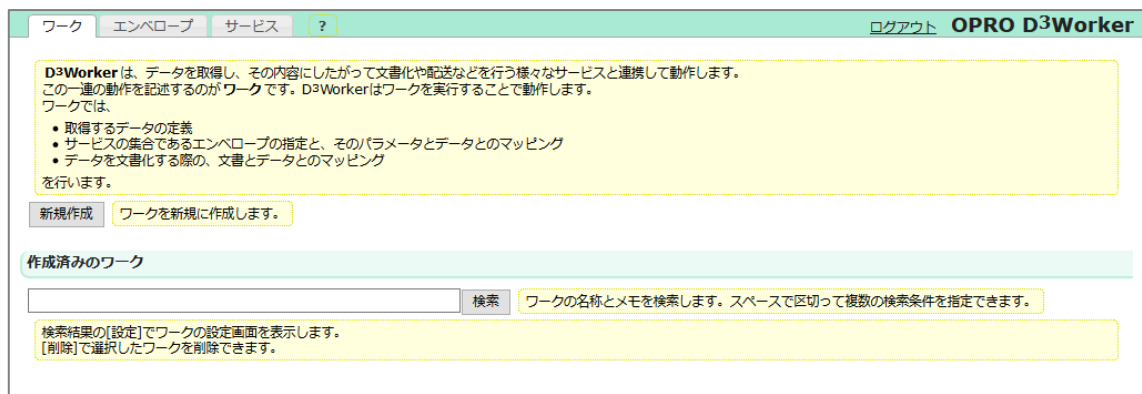
2. OPRPARTS 認証情報「UID」「UPW」を入力し、[ログイン] ボタンをクリックします。

Point

- OPROARTS 認証情報は、契約時に当社が発行し、メールにて送付したテキストファイルをご確認ください。

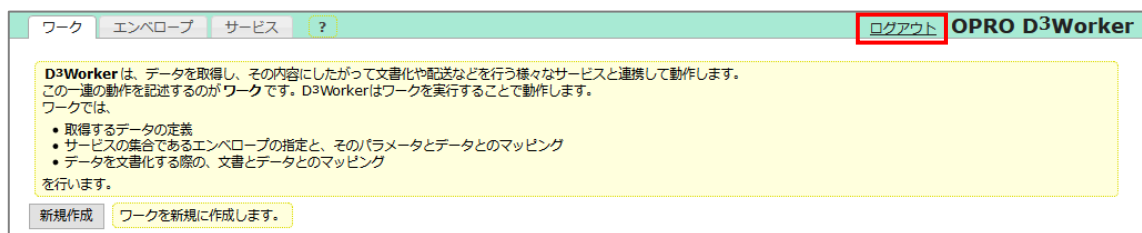
```
OPROARTS認証情報 2019/02/12 株式会社オプロ
株式会社オプロ
【認証情報】
CID:XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
©D3Worker認証用
UID:XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX UPW:XXXXXXXXXXXX
以上
```

3. D3Worker の設定画面が表示されます。



■ ログアウト

1. D3Worker の設定画面最上部の [ログアウト] をクリックします。



3.2 サービス・エンベロープ・ワークとは

以下の順番で設定します。

■ 設定の流れ

①サービスの設定（利用する機能の設定）

利用する機能の設定をします。

メール配信や OPROARTS での文書生成など、それぞれの機能のことをサービスと呼びます。

②エンベロープの設定（処理の設定）

作成したサービスを 1 つの処理にまとめます。

エンベロープとは、1 回の処理で利用するサービスをひとまとめにした処理の単位です。

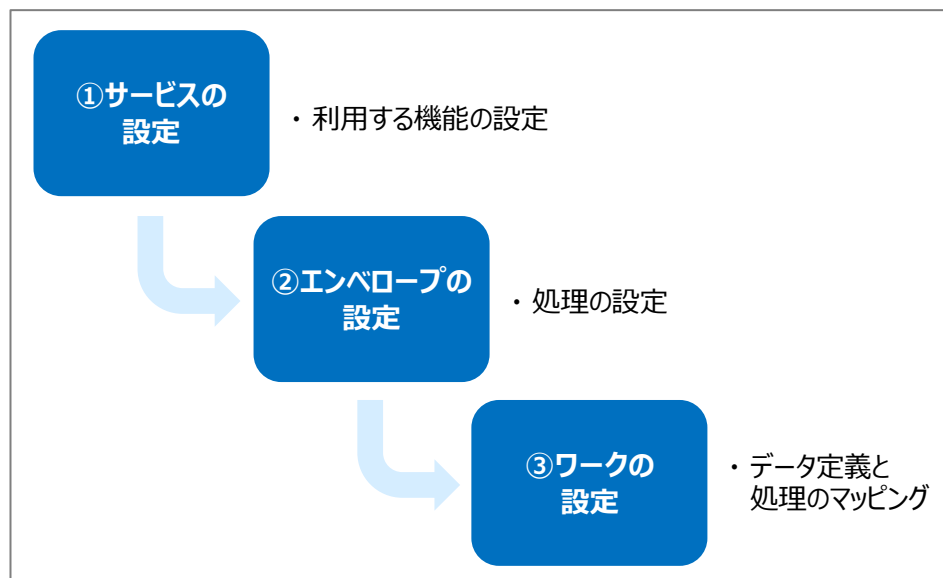
例：

OPROARTS で生成した文書をメール配信する場合には、エンベロープで OPROARTS サービスとメールサービスを選択します。

③ワークの設定（データ定義と処理のマッピング）

D3Worker は、データを取得し、その内容に従って様々なサービスと連携して動作します。

この一連の動作を記述するのがワークです。



■ 処理の流れ

1. D3Worker は、ワークと CSV を指定してリクエストすることで動作します。
2. ワークが CSV を受け取り、文書へのマッピングと使用するエンベロープを選別します。
3. エンベロープに設定されているサービスに従って、文書の生成や配送を行います。

3.3 サービスの設定

サービスは、使いたい機能を設定する単位です。サービスタイプには、「文書化」「保管」「配送」の3つがあります。

サービスタイプ	説明
文書化サービス	ファイルを提供するサービス。 OPROARTS サービス、アップロードサービスなど。
保管サービス	文書化サービスが返したファイルを保管するサービス。 ファイルの取り出しや削除を行います。
配送サービス	文書化サービスが返したファイルを配送するサービス。 FAX サービスやメールサービスなど。

標準で利用できる主なサービスは以下のとおりです。

サービス名	サービスタイプ			参照先
	文書化	保管	配送	
OPROARTS	○			3.3.1 OPROARTS を設定する
Cloud Print			○	
メール送信 (SMTP)			○	3.3.2 メール送信 (SMTP) を設定する
FTP [配送]			○	
Salesforce Files [配送]			○	
Salesforce Files [文書化]	○			
kintone [保管]		○		
kintone [配送]			○	
kintone [文書化]	○			
アップロード文書	○			

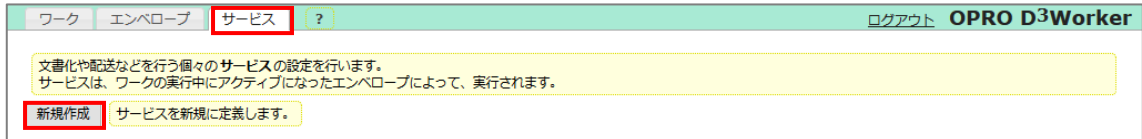
その他のサービスや設定方法は、当社の TECH コラムを参照してください。

<https://spc.opro.net/hc/ja/articles/360021620194>

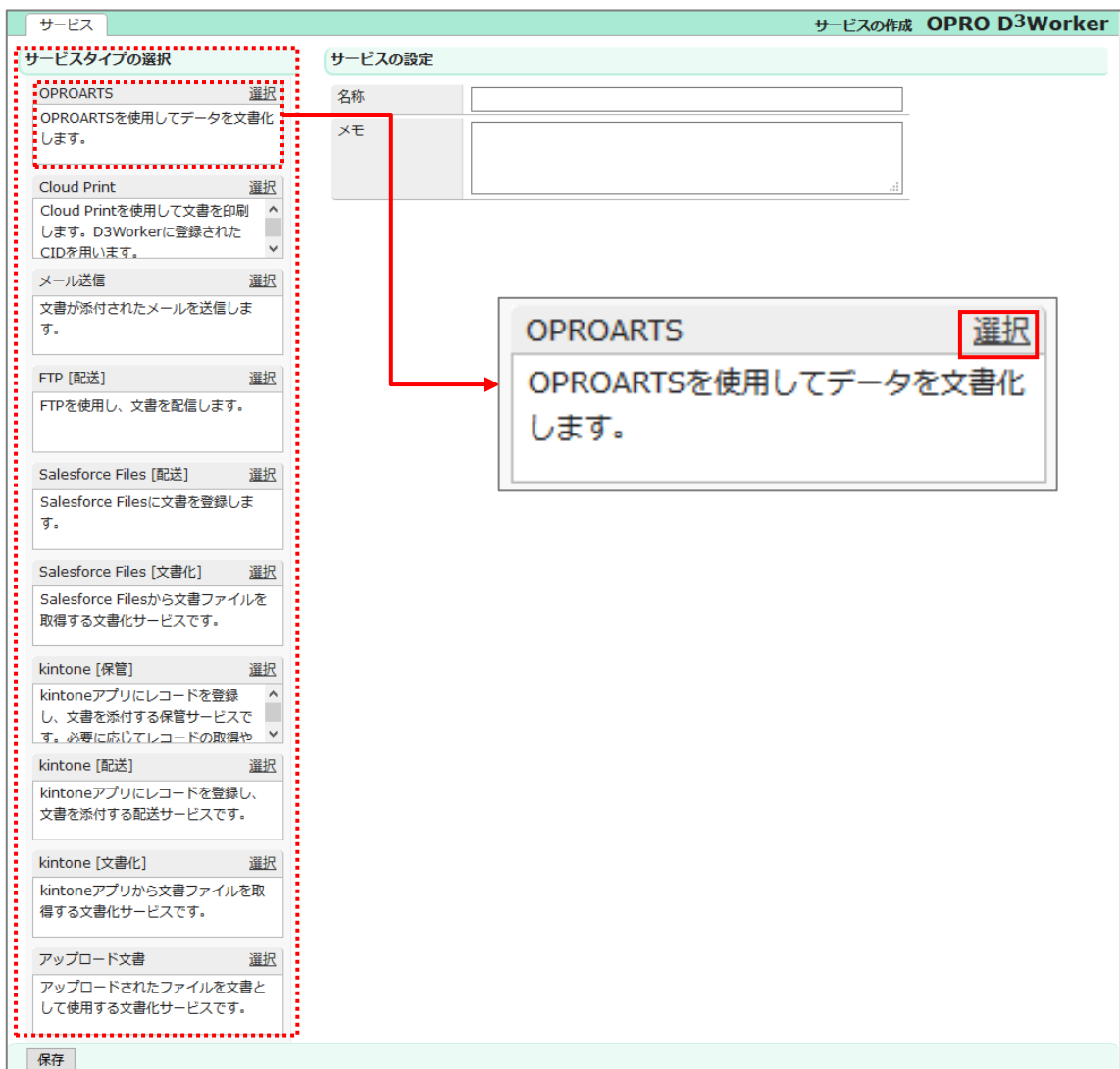
3.3.1 OPROARTS を設定する

D3Worker の文書化サービスとして、OPROARTS を利用する際のサービス設定を説明します。
操作の流れは次のとおりです。

1. D3Worker へログインします。
2. サービスを定義します。[サービス] タブをクリックし、[新規作成] ボタンをクリックします。



3. 画面左にある「サービスタイプの選択」に、利用できるサービスが表示されます。「OPROARTS」の「選択」をクリックします。



注意

- ご契約内容によって「サービスタイプの選択」に表示されるサービスが異なります。

4. 画面右にある「サービスの設定」で次の項目を設定し、「接続の確認」ボタンをクリックします。

Point

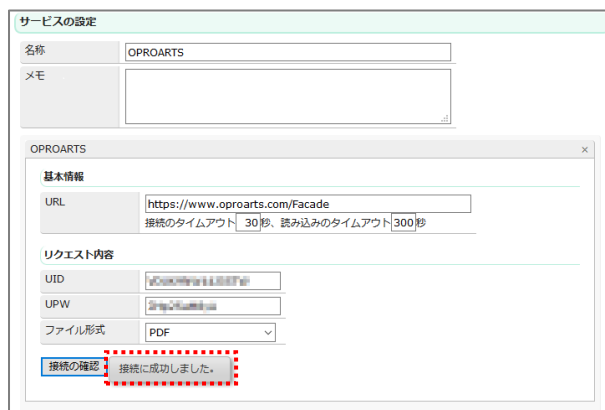
- サービスタイプを選択するとタイトルがグレーになります。「サービスの設定」画面には、選択したサービス用の設定画面が表示されます。

項目名	入力必須	説明
名称	○	サービス名称（ユニークな任意の名称）を入力します。
メモ	-	必要に応じて、簡単なメモを入力します。
基本情報		
URL	○	次の URL を入力します。 「https://www.oproarts.com/Facade」 タイムアウトは次のとおり初期値が設定されています。変更したい場合は、修正します。 ・接続時のタイムアウト：30 秒 ・読み込み時のタイムアウト：300 秒

項目名	入力必須	説明
リクエスト内容		
UID	○	契約時に当社が発行し、メールにて送付した OPROARTS 認証情報を入力します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> OPROARTS認証情報 2019/02/12 株式会社オプロ 株式会社オプロ 【認証情報】 CID:XXXXXXXXXXXXXXXX <div style="border: 2px dashed red; padding: 2px; margin: 2px 0;"> ◎ドキュメント出力用(LA) UID:XXXXXXXXXXXXXXXX UPW:XXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXX 以上 </div> </div>
UPW	○	
ファイル形式	○	出力するファイルの形式を次のいずれかから選択します。 「PDF」 「OPR」 「ODP」 「Excel」 「Excel (Document Designer for Office) 」 「Word (Document Designer for Office) 」

Point

- OPROARTS サービスの設定内容が正しい場合、「接続の確認」ボタンをクリックすると、「接続に成功しました。」というポップアップメッセージが表示されます。



5. 設定内容に問題がないことを確認し、[保存] ボタンをクリックします。サービスの設定は完了です。

3.3.2 メール送信（SMTP）を設定する

D3worker の「メール送信」サービスの設定方法は次のとおりです。

1. D3Worker へログインします。
2. サービスを定義します。[サービス] タブをクリックし、[新規作成] ボタンをクリックします。

3. 画面左にある「サービスタイプの選択」から「メール送信」の「選択」をクリックします。

サービス

サービスの作成 OPRO D3Worker

サービスタイプの選択

OPROARTS 選択
OPROARTSを使用してデータを文書化します。

Cloud Print 選択
Cloud Printを使用して文書を印刷します。D3Workerに登録されたCIDを用います。

メール送信 選択
文書が添付されたメールを送信します。

FTP [配送] 選択
FTPを使用し、文書を配信します。

Salesforce Files [配送] 選択
Salesforce Filesに文書を登録します。

Salesforce Files [文書化] 選択
Salesforce Filesから文書ファイルを取得する文書化サービスです。

kintone [保管] 選択
kintoneアプリにレコードを登録し、文書を添付する保管サービスです。必要に応じてレコードの取得や

kintone [配送] 選択
kintoneアプリにレコードを登録し、文書を添付する配送サービスです。

kintone [文書化] 選択
kintoneアプリから文書ファイルを取得する文書化サービスです。

アップロード文書 選択
アップロードされたファイルを文書として使用する文書化サービスです。

サービスの設定

名称

メモ

メール送信 選択
文書が添付されたメールを送信します。

保存

注意

- ご契約内容によって「サービスタイプの選択」に表示されるサービスが異なります。

4. 画面右にある「サービスの設定」で次の項目を設定し、「接続の確認」ボタンをクリックします。

Point

- サービスタイプを選択するとタイトルがグレーになります。「サービスの設定」画面には、選択したサービス用の設定画面が表示されます。

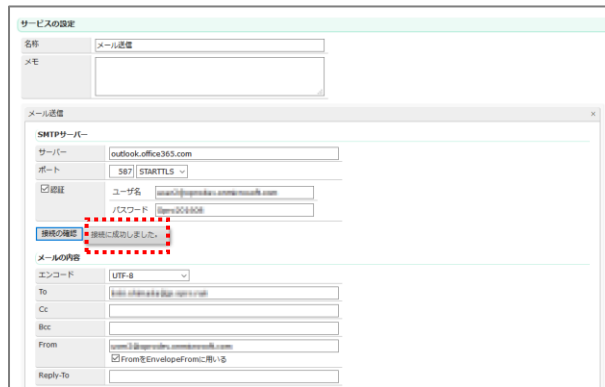
項目名	入力必須	説明
名称	○	サービス名称（ユニークな任意の名称）を入力します。
メモ	-	必要に応じて、簡単なメモを入力します。

項目名	入力必須	説明
SMTP サーバー		
サーバー	○	連携する SMTP サーバーの URL を入力します。
ポート	○	サーバーのポート番号を入力し、暗号化方式を次のいずれかから選択します。 「暗号化なし」「SSL」「STARTTLS」
認証	○	認証が必要な場合は、「認証」にチェックを付けます。 ユーザ名：ユーザアカウント名称を入力します。 パスワード：ユーザアカウントに紐づくパスワードを入力します。
メールの内容		
エンコード	-	送信するメールの文字コードを次のいずれかから選択します。 「UTF-8」「JIS (ISO-2022-JP)」
To	○	宛先を入力します。
Cc	-	Cc の宛先を入力します。
Bcc	-	Bcc の宛先を入力します。
From	○	発信元を入力します。 「EnvelopeFrom」にも「From」と同じアドレスを使用する場合は、 「From を EnvelopeFrom に用いる」にチェックを付けます。
Reply-To	-	発信元で指定していないアドレスを返信時に設定したい場合、そのアドレスを入力します。
件名	○	メールの件名を入力します。
本文	○	メールの本文を入力します。
添付ファイル		
文書の添付	○	文書の添付有無を選択します。 ・する：文書が添付されます。 ・しない：文書は添付されません。
文書データの添付	○	文書データの添付有無を選択します。 ・する：文書データが添付されます。 ・しない：文書データは添付されません。
添付ファイルの ZIP	○	添付ファイルの ZIP 化有無を選択します。 ・する：添付ファイルが ZIP 化されます。 ・しない：添付ファイルは ZIP 化されません。
ZIP パスワード	-	ZIP ファイルを開くためのパスワードを入力します。

項目名	入力必須	説明
ZIP パスワードの通知		
通知メール	<input type="radio"/>	ZIP パスワード通知メールの送信有無を選択します。 ・送信する : ZIP パスワード通知メールが送信されます。 ・送信しない : ZIP パスワード通知メールは送信されません。
件名	-	ZIP パスワード通知メールの件名を入力します。
本文	-	ZIP パスワード通知メールの本文を入力します。

Point

- SMTP サーバーの設定が正しい場合、[接続の確認] ボタンをクリックすると、「接続に成功しました。」というポップアップメッセージが表示されます。



5. 設定内容に問題がないことを確認し、[保存] ボタンをクリックします。サービスの設定は完了です。

サービス
サービスの作成 OPRO D3Worker

サービスタイプの選択

OPROARTS 選択

OPROARTSを使用してデータを文書化します。

Cloud Print 選択

Cloud Printを使用して文書を印刷します。D3Workerに登録されたCIDを用います。

メール送信

文書が添付されたメールを送信します。

FTP [配送] 選択

FTPを使用し、文書を配信します。

Salesforce Files [配送] 選択

Salesforce Filesに文書を登録します。

Salesforce Files [文書化] 選択

Salesforce Filesから文書ファイルを取得する文書化サービスです。

kintone [保管] 選択

kintoneアプリにレコードを登録し、文書を添付する保管サービスです。必要に応じてレコードの取得や

kintone [配送] 選択

kintoneアプリにレコードを登録し、文書を添付する配送サービスです。

kintone [文書化] 選択

kintoneアプリから文書ファイルを取得する文書化サービスです。

アップロード文書 選択

アップロードされたファイルを文書として使用する文書化サービスです。

サービスの設定

名称

メモ

メール送信

SMTPサーバー

サーバー

ポート

認証

ユーザ名

パスワード

接続の確認

メールの内容

エンコード

To

Cc

Bcc

From

FromをEnvelopeFromに用いる

Reply-To

件名

本文

添付ファイル

文書の添付 する しない

文書データの添付 する しない

添付ファイルのZIP する しない

ZIPパスワード

ZIPパスワードの通知

通知メール 送信する 送信しない

件名

本文

保存

3.4 エンベロープの設定

エンベロープでは、作成したサービスを1つの処理としてまとめます。
次の設定タブがあります。

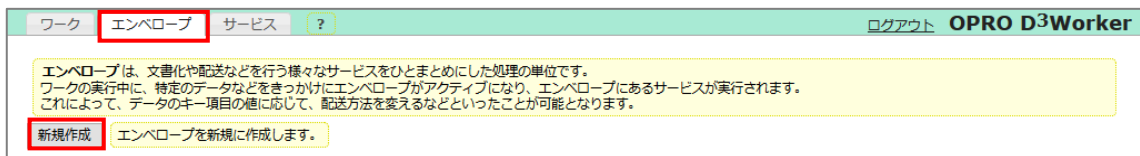
設定タブ	説明
基本情報	エンベロープ名とメモ、件名を入力します。
属性	ここで入力した属性の情報が実行履歴に表示され、実行状況を確認することができます。
文書化サービス	エンベロープで利用する文書化サービスを選択します。
保管サービス	エンベロープで利用する保管サービスを選択します。
配送サービス	エンベロープで利用する配送サービスを選択します。

Point

- エンベロープの設定タブのうち、「属性」「文書化サービス」「配送サービス」では、「エンベロープパラメータ」を設定することが可能です。
- 「エンベロープパラメータ」を設定することで、設定した項目の値を動的に変更することが可能です。
- エンベロープパラメータの設定例については、「3.4 エンベロープの設定」最終ページの Point を参照してください。

ここでは「PDF ファイルをメール送信する」という処理を例として、「文書化サービス」には「OPROARTS」、「配送サービス」には「メール送信」を選択したエンベロープを作成する手順を説明します。

1. D3Worker へログインします。
2. エンベロープを定義します。[エンベロープ] タブをクリックし、[新規作成] ボタンをクリックします。



3. [基本] タブへ切り替わります。次の項目を設定します。

項目名	入力必須	説明
名称	○	エンベロープ名称（ユニークとな任意の名称）を入力します。
メモ	-	必要に応じて、簡単なメモを入力します。

項目名	入力必須	説明
件名	-	一連の処理が識別できる件名を入力します。 ここで入力した件名の情報が実行履歴に表示され、実行状況を確認することができます。

4. [属性] タブをクリックします。属性の設定画面が表示されます。次の項目を設定します。

項目名	入力必須	説明
属性 1～属性 5	-	ここで入力した属性の情報が実行履歴に表示され、実行状況を確認することができます。

5. [文書化サービス] タブをクリックします。画面左にある「文書化サービスの選択」に、利用できるサービスが表示されます。

6. 「OPROARTS」の [選択] をクリックします。

7. 画面右にある「選択済みの文書化サービス」で次の項目を設定します。

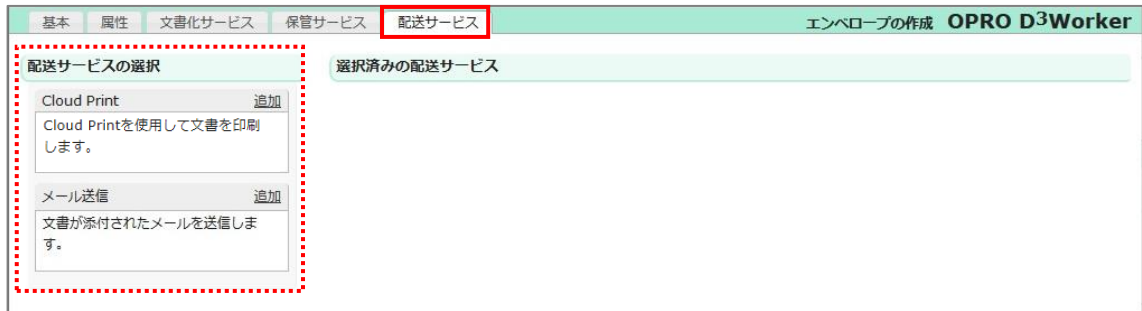


Point

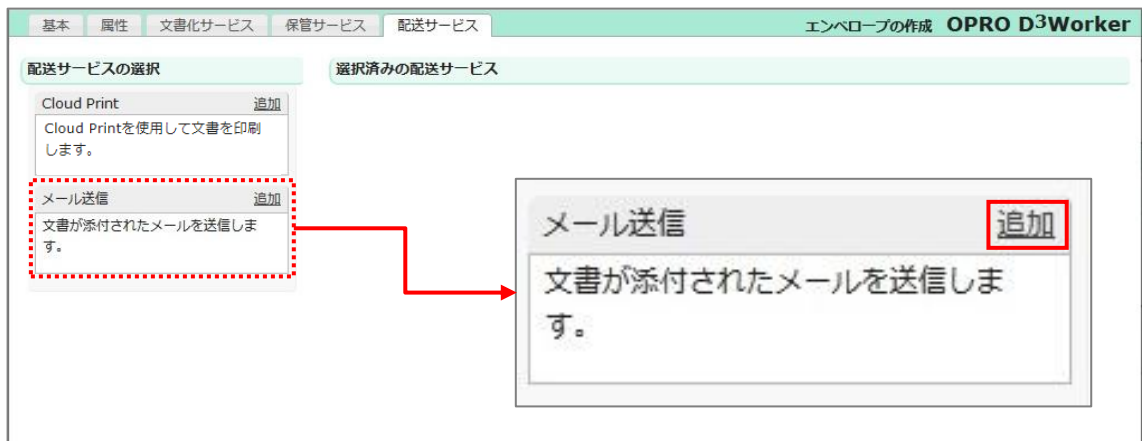
- 文書化サービスを選択するとタイトルがグレーになります。「選択済みの文書化サービス」画面には、選択したサービス用の設定画面が表示されます。

項目名	入力必須	説明
基本情報		
URL	○	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。
リクエスト内容		
UID	○	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。
UPW	○	
ファイル形式	○	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。 ファイル形式を変更する場合は、次のいずれかから選択します。 「PDF」「OPR」「ODP」「Excel」 「Excel (Document Designer for Office) 」 「Word (Document Designer for Office) 」 「指定値」

8. 「配送サービス」タブをクリックします。画面左にある「配送サービスの選択」に、利用できるサービスが表示されます。



9. 「メール送信」の「追加」をクリックします。



10. 画面右の「選択済みの配送サービス」で次の項目を設定し、[保存] ボタンをクリックします。
エンベロープの設定は完了です。

Point

- 配送サービスを選択するとタイトルがグレーになります。「選択済みの配送サービス」画面には、選択したサービス用の設定画面が表示されます。

項目名	入力必須	説明
メールの内容		
エンコード	-	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。 文字コードの定義を変更する場合は、次のいずれかから選択します。 「UTF-8」「JIS (ISO-2022-JP)」
To	○	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。 [編集] ボタンをクリックして、動的に宛先を切り替えることができます。 ※設定例は、後続の Point で記載しています。
Cc	-	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。 [編集] ボタンをクリックして、動的に Cc の宛先を切り替えることができます。
Bcc	-	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。 [編集] ボタンをクリックして、動的に Bcc の宛先を切り替えることができます。

項目名	入力 必須	説明
From	○	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。 [編集] ボタンをクリックして、動的に発信元を切り替えることができます。
Reply-To	-	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。 [編集] ボタンをクリックして、動的に返信先を切り替えることができます。
件名	○	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。 [編集] ボタンをクリックして、動的に件名を切り替えることができます。
本文	○	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。 [編集] ボタンをクリックして、動的に本文を切り替えることができます。
添付ファイル		
文書の添付	○	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。 設定を変更する場合は、次のいずれかから選択します。 ・する : 文書が添付されます。 ・しない : 文章は添付されません。
文書データの添付	○	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。 設定を変更する場合は、次のいずれかから選択します。 ・する : 文書データが添付されます。 ・しない : 文章データは添付されません。
添付ファイルの ZIP	○	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。 設定を変更する場合は、次のいずれかから選択します。 ・する : 添付ファイルが ZIP 化されます。 ・しない : 添付ファイルは ZIP 化されません。
ZIP パスワード	-	ZIP ファイルを開くためのパスワードを入力します。
ZIP パスワードの通知		
通知メール	○	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。 設定を変更する場合は、次のいずれかから選択します。 ・送信する : ZIP パスワード通知メールが送信されます。 ・送信しない : ZIP パスワード通知メールは送信されません。
件名	-	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。 [編集] ボタンをクリックして、動的に件名を切り替えることができます。
本文	-	初期値で、「サービスの設定を用いる」と設定されています。 [編集] ボタンをクリックして、動的に本文を切り替えることができます。

Point

- 1つのエンベロープで、「配送サービス」は複数選択できます。

Point

- 「配送サービス」に「エンベロープパラメータ」を指定して、データの内容やリクエストパラメータに指定した値によって、動的に処理を振り分けられます。
例：
「配送サービス」の「メール送信」で、「To」にサービスの設定ではなく、エンベロープパラメータ：{To}を指定して、メール送信先を切り替えます。

1. エンベロープの設定

■「配送サービス」タブの設定画面

2. ワークの設定

■「データソース」タブの設定画面

■「エンベロープ」タブの設定画面

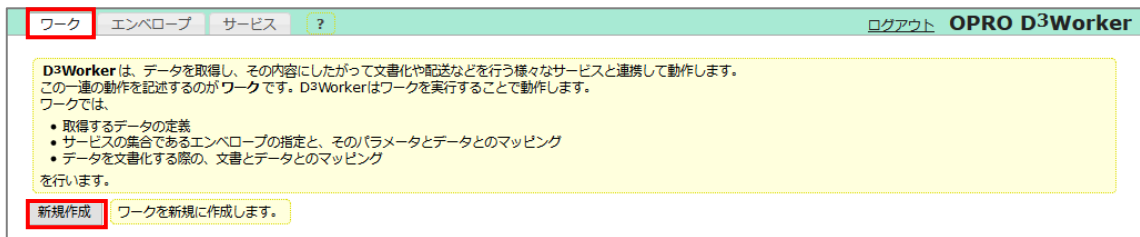
3.5 ワークの設定

ワークでは、データを受け取り、その内容に従ってサービスを実行する一連の動作を設定します。
次の設定タブがあります。

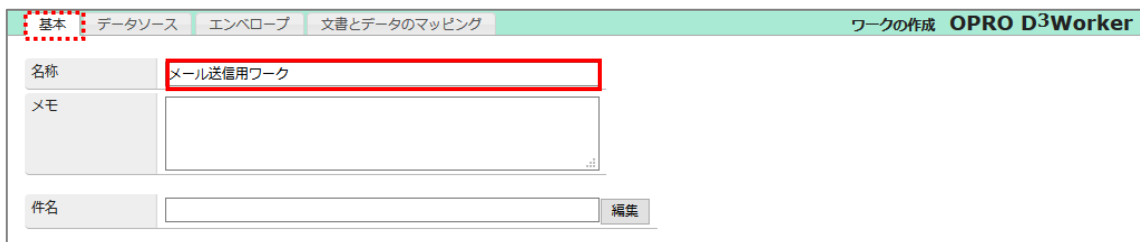
設定タブ	説明
基本	ワーク名とメモ、件名を入力します。
データソース	データソースのフィールドを指定します。 CSVを参照して、フィールドを一括登録することもできます。
エンベロープ	データソースで入力したフィールド名のうち、キーとなる項目を選択します。 ここで選択した項目で後続のエンベロープへ引き渡すデータが分割されます。
文書とデータのマッピング	帳票テンプレートとデータソースをマッピングします。 OPROARTSのWebデザイナー「Live」などで作成したテンプレートを利用する場合、設定します。 アップロード文書のように既存の文書（ファイル）を直接利用する場合は設定不要です。

ワークの「データソース」タブ、「エンベロープ」タブ、「文書とデータのマッピング」タブの設定手順を説明します。

1. D3Workerへログインします。
2. ワークを定義します。[ワーク]タブをクリックし、[新規作成]ボタンをクリックします。



3. [基本]タブへ切り替わります。次の項目を設定します。



項目名	入力必須	説明
名称	○	ワーク名称（ユニークな任意の名称）を入力します。 ここで入力した値がD3Worker実行時のワーク名となるため、帳票名や動作がわかる名称などを推奨します。
メモ	-	簡単なメモを入力します。 動作上影響を受けないため、紐づくエンベロープやサービスなどを記載しておくこと一覧上で区別しやすくなります。
件名	-	対象のワークを処理した際、実行履歴画面上のワークと紐づけるために利用します。

4. データソースを設定します。[データソース] タブをクリックし、データソースのフィールドを指定します。



Point

- [データソース] タブをクリックし、表示される設定画面では、空白のフィールド欄が 1 つ表示されます。フィールド欄を追加する方法は次の 3 通りです。
- 空白のフィールド欄を 1 つずつ追加する場合
「+」ボタンを必要な数分、クリックします。



- 空白のフィールド欄を一括で複数追加する場合
「追加するフィールド数」に必要な数値を入力し、[追加] ボタンをクリックします。



- CSVのヘッダをフィールド欄に一括で入力する場合

[参照...] ボタンをクリックしてヘッダ情報が記載された CSV ファイルを選択し、[実行] ボタンをクリックします。

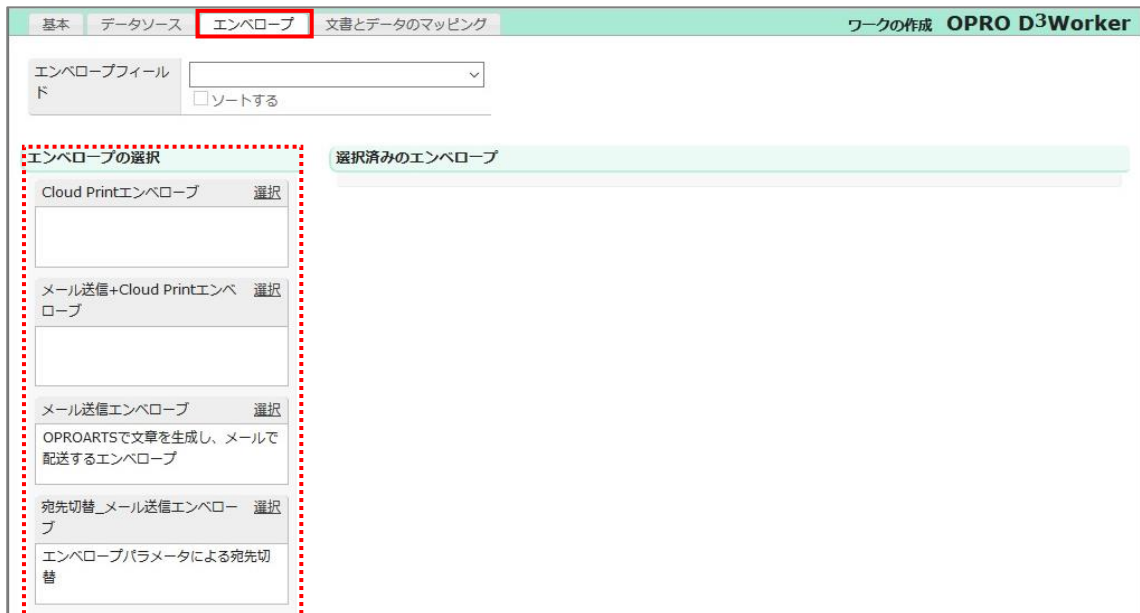


5. データソースのフィールドを指定します。

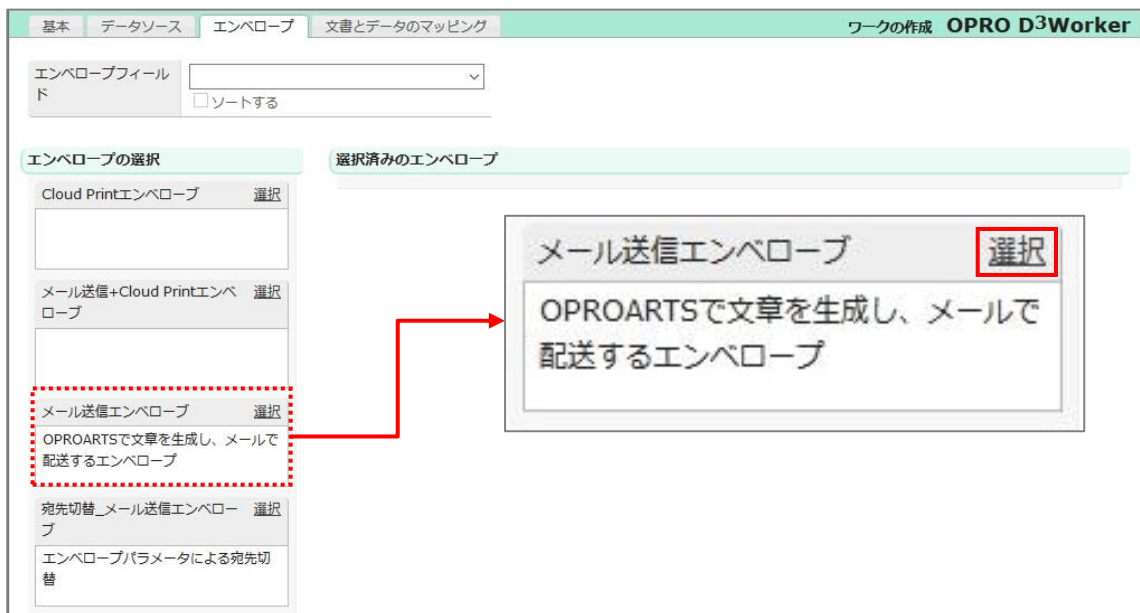


項目名	入力必須	説明
CSV の形式		
文字コード	○	D3Worker にリクエストする CSV データの文字コードを次のいずれかから選択します。「シフト JIS」「UTF-8」
先頭行	-	D3Worker にリクエストする CSV データにヘッダ行がある場合、「データとして使用しない」にチェックを付けます。
フィールド		
フィールド名	○	D3Worker にリクエストする CSV データのフィールド名を入力します。
[▼] / [▲] ボタン	-	フィールドの順番を変更する場合、クリックします。
[×] ボタン	-	フィールドを削除する場合、クリックします。
CSV を取得	-	クリックすると、表示されているフィールド名をカンマで区切った CSV データがダウンロードされます。

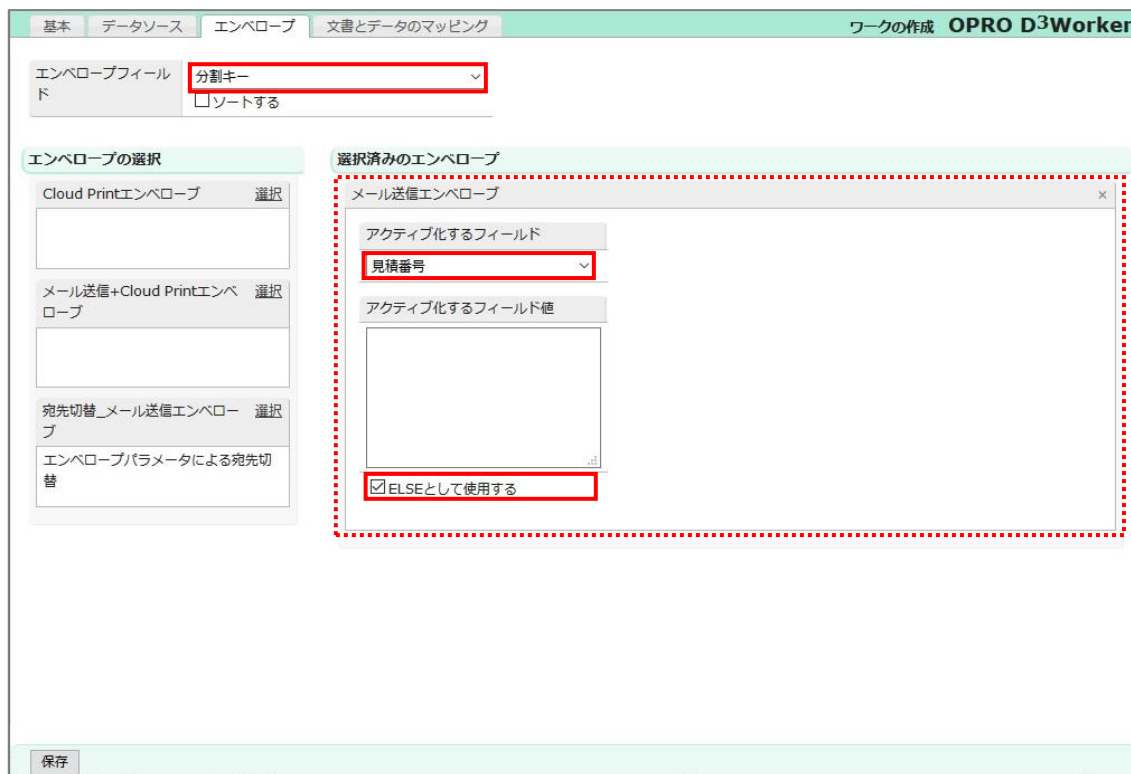
6. エンベロープを設定します。[エンベロープ] タブをクリックします。
画面左にある「エンベロープの選択」に、利用できるエンベロープが表示されます。



7. 「メール送信エンベロープ」の「選択」をクリックします。



8. 「エンベロープフィールド」と、画面右にある「選択済みのエンベロープ」で次の項目を設定します。



項目名	入力必須	説明
エンベロープフィールド	○	「データソースの行番号」か、手順 5 データソースの設定で入力したフィールド名を選択します。 ※ここで、キーとなるフィールドを選択すると、選択したフィールドの値が変わったタイミングで後続のエンベロープへ引き渡すデータが分割されます。 例：顧客 No をキーとして指定すると、顧客 No 単位でドキュメントが生成されます。
ソートする	-	指定したエンベロープフィールドでデータを仕分ける場合、チェックを付けます。
選択済みのエンベロープ		
選択済みエンベロープ	-	「エンベロープの選択」で選択したエンベロープが表示されます。
アクティブ化するフィールド	○	エンベロープを有効にするかどうかを判別する項目を選択します。 「エンベロープフィールド」「データソースの行番号」または手順 5 データソースの設定で入力したフィールド名を選択します。
アクティブ化するフィールド値	-	「アクティブ化するフィールド」で設定された項目が、「アクティブ化するフィールド値」で入力した値と同じ場合に、対象のエンベロープが実行されます。
ELSE として使用する	-	「ELSE として使用する」にチェックが付いている場合、「アクティブ化するフィールド」によって実行されるエンベロープが 1 つもない時に処理が実行されます。

9. [文書とデータのマッピング] タブをクリックし、連携する帳票テンプレートとデータソースをマッピングします。次の項目を設定し、[データセットの追加] ボタンをクリックします。

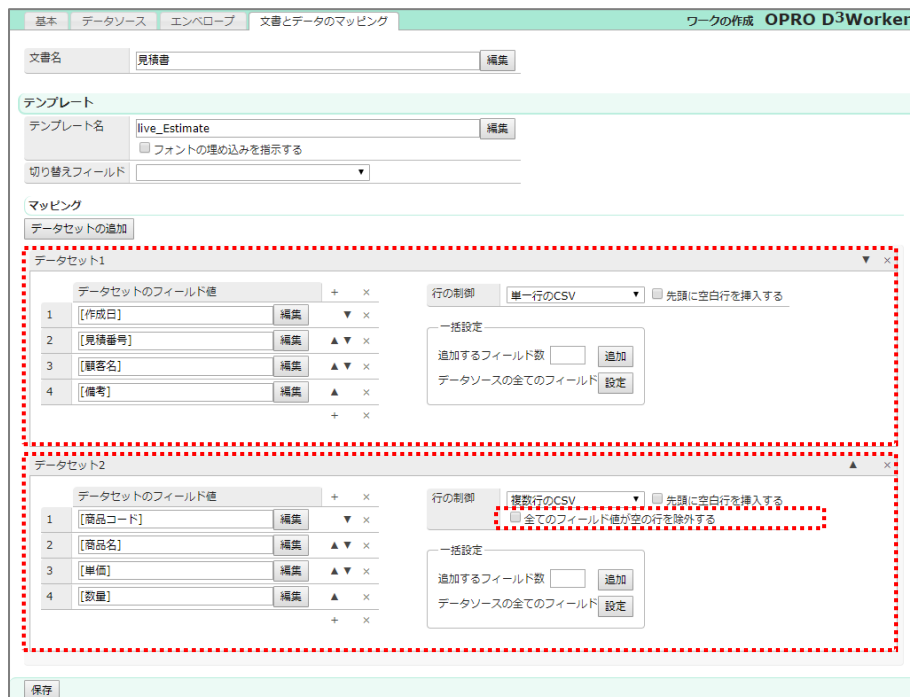
項目名	入力必須	説明
文書名	○	出力する PDF のファイル名を入力します。
テンプレート		
テンプレート名	○	作成したテンプレート名を入力します。 ※Live でテンプレートを作成した場合は、テンプレート名の先頭に「live_」を付けてください。
フォントの埋め込みを指示する	-	PDF ファイルにフォントを埋め込む場合、チェックを付けます。
切り替えフィールド	-	同じテンプレートでマルチテンプレートする際のキーとなるフィールドを指定します。 設定例については「5.3 切り替えフィールドによるマルチテンプレートで送信する」を参照してください。

10. データソースのフィールドを入力する画面が表示されます。次の項目を設定し、[保存] ボタンをクリックします。ワークの設定は完了です。

項目名	入力必須	説明
マッピング		
データセットのフィールド値	○	マッピングするフィールドを入力します。
[▼] / [▲] ボタン	-	フィールドの順番を変更する場合、クリックします。
[×] ボタン	-	フィールドを削除する場合、クリックします。
行の制御	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「単一行の CSV」： 帳票テンプレートのヘッダにあたるフィールドを設定する場合、選択します。 ・「複数行の CSV」： 帳票テンプレートの明細にあたるフィールドを設定する場合、選択します。 <p>帳票テンプレート側で「先頭行を無視する」設定をしている場合、「先頭に空白行を挿入する」にチェックを付けます。</p> <p>「全てのフィールド値が空の行を除外する」にチェックが入っている場合、データセットに指定したすべての項目が空である行は、データセットには使われません。</p>
一括設定	-	<p>データセットのフィールド値を一括で設定する場合に指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「追加するフィールド数」： 空白のフィールド欄を一括で複数追加する場合、必要な数値を入力し、[追加] ボタンをクリックします。 ・「データソースの全てのフィールド」： [データソース] タブで設定したすべてのフィールドを一括で設定する場合 [設定] ボタンをクリックします。

Point

- データセットは、複数設定できます。複数設定した画面は次のとおりです。



4. 実行

D3Worker の実行手順と、実行結果の確認方法について説明します。

D3Worker の実行は、URL から行います。表示された実行画面からワークの名称と、使用するファイルを指定してリクエストします。

実行結果は、実行履歴を参照して確認します。

4.1 CSV ファイルで D3Worker を実行する

CSV ファイルを使ってワークを実行する手順を説明します。

1. D3Worker 実行画面の URL へアクセスします。

URL :

<https://d3w.ap.oproarts.com/d3w/a/{お客様用テナント}/al/facade/upload.html>

※{お客様用テナント} : お客様ごとに英数字・記号（アンダーバー）が設定されています。

実際の設定にあわせてください。

2. D3Worker の実行画面が表示されます。次の項目を入力し、[実行] ボタンをクリックします。

項目名	入力必須	説明
認証		
UID	○	契約時に当社が発行し、メールにて送付した OPROARTS 認証情報を入力します。
UPW	○	<pre>OPROARTS認証情報 2019/02/12 株式会社オプロ 株式会社オプロ 【認証情報】 CID:XXXXXXXXXXXXXXXXX ①D3Worker認証用 UID:XXXXXXXXXXXXXXXXX UPW:XXXXXXXXXXXXXXXXX 以上</pre>

項目名	入力 必須	説明
帳票データ		
ワーク	○	実行するワーク名を入力します。
CSV ファイル	○	ワーク実行に利用する CSV ファイルを選択します。 [ファイルを選択] ボタンをクリックし、ファイルを指定します。 ※「CSV ファイル」は、D3Worker へアップロードする、インプットデータとなります。

4.2 CSV ファイルとファイルで D3Worker を実行する

CSV ファイルとファイルを使ってワークを実行する手順を説明します。

Point	<p>利用するサービスによって、データソースとなる CSV とは別に、アップロードされたファイルを受け取るものがあります。(アップロード文書 等)</p> <p>CSV とは別に、サービスが求めるパラメータでファイルをアップロードする際に本方法を利用します。</p>
--------------	---

1. D3Worker 実行画面の URL へアクセスします。

URL :

<https://d3w.ap.oproarts.com/d3w/a/{お客様用テナント}/al/facade/upload1.html>

※{お客様用テナント}：お客様ごとに英数字・記号（アンダーバー）が設定されています。

実際の設定にあわせてください。

2. D3Worker の実行画面が表示されます。次の項目を入力し、[実行] ボタンをクリックします。

The screenshot shows the 'ワークの実行' (Work Execution) page. It includes a '認証' (Authentication) section with 'UID' and 'UPW' fields. Below that is the '帳票データ' (Form Data) section with 'ワーク' (Work), 'CSVファイル' (CSV File), and '追加ファイル' (Additional Files) sections. The '実行' (Execute) button is highlighted with a red box.

項目名	入力 必須	説明
認証		
UID	○	契約時に当社が発行し、メールにて送付した OPROARTS 認証情報を入力します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> OPROARTS認証情報 2019/02/12 株式会社オプロ 株式会社オプロ 【認証情報】 CID:XXXXXXXXXXXXXXXXX <div style="border: 2px dashed red; padding: 2px; margin: 2px 0;"> ◎D3Worker認証用 UID:XXXXXXXXXXXXXXXXX UPW:XXXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXXXXX </div> 以上 </div>
UPW	○	
帳票データ		
ワーク	○	実行するワーク名を入力します。
CSV ファイル	○	ワーク実行に利用する CSV ファイルを選択します。 [ファイルを選択] ボタンをクリックし、ファイルを指定します。 ※「CSV ファイル」は、D3Worker へアップロードする入力データとなります。
追加ファイル	○	ワーク実行に利用する追加ファイルを設定します。 ・リクエストパラメータ：文書ファイルまたはテキストを D3Worker へ送信する際の HTTP リクエストパラメータ名を入力します。 ・ファイル：D3Worer に連携するファイルを選択します。 [ファイルを選択] ボタンをクリックし、ファイルを選択します。

4.3 実行履歴の検索

D3Worker の実行履歴を参照する手順を説明します。

1. D3Worker 履歴画面の URL へアクセスします。

URL :

<https://d3w.ap.oproarts.com/d3w/a/{お客様用テナント}/history/>

※{お客様用テナント} : お客様ごとに英数字・記号（アンダーバー）が設定されています。

実際の設定にあわせてください。

2. D3Worker の履歴検索画面が表示されます。[検索] ボタンをクリックします。

The screenshot shows the '履歴検索' (History Search) page in the OPRO D3Worker system. The search conditions form is empty, and the search button is highlighted with a red box. The search criteria include date, item name, and five attributes. The search results are currently empty.

3. 検索条件で抽出された、D3Worker の実行結果が表示されます。

The screenshot shows the '履歴検索' (History Search) page in the OPRO D3Worker system. The search conditions form is filled with the date 2019/02/15. The search results table shows four rows of data. The search button is highlighted with a red box.

日時	件名	属性1	属性2	属性3	属性4	属性5	状況
2019/02/15 15:54:28							エラー
2019/02/15 15:54:28							完了
2019/02/15 15:54:00							完了
2019/02/15 15:53:17							完了

18件

Point

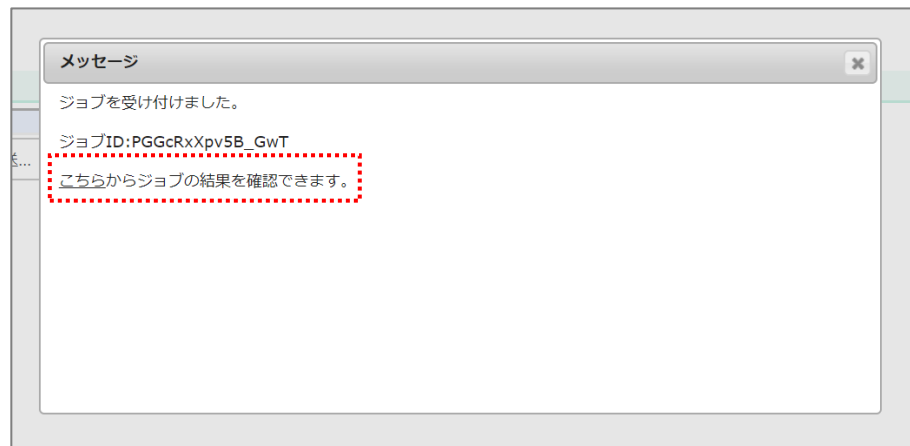
- 「3.4 エンベロープの設定」で「件名」と「属性 1」～「属性 5」を入力した場合は、その件名と属性の情報が履歴画面に表示され、実行状況とあわせて確認できます。

Point

- 並べ替えに「日時」を選んだ場合、同時刻に実行されたワークについてはエンベロープの実行順に表示されます。

Point

- D3Worker の実行結果は、D3Worker 実行後のポップアップからも確認できます。



5. 組み合わせパターン

CSV と帳票テンプレート、D3Worker の設定を組み合わせた連携例について説明します。

CSV と帳票テンプレート、D3Worker の設定を組み合わせて、複数の送信先や配送サービスに振り分けてメール送信することや、メールに添付する文書を切り替えて送信することができます。

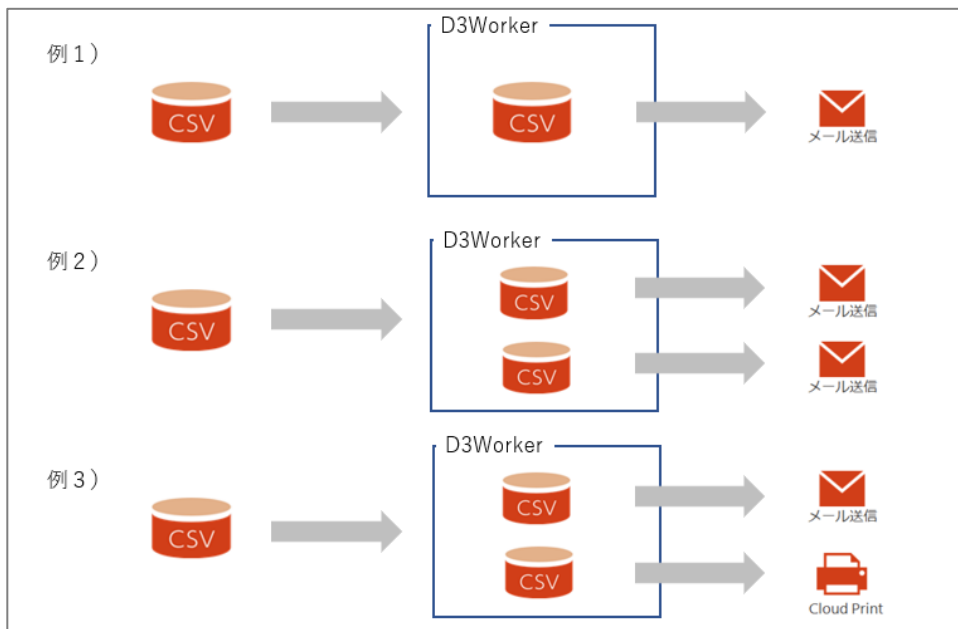
5.1 1つのテンプレートとワークで、送信先を切り替える

1つのテンプレートとワークを設定し、3つのパターンのCSVをD3Workerに連携することで、次のように送信する例を説明します。

例1：メールを1通送信する。

例2：エンベロープフィールドを利用してメールを2通送信する。（例1と同じエンベロープを2回実行する）

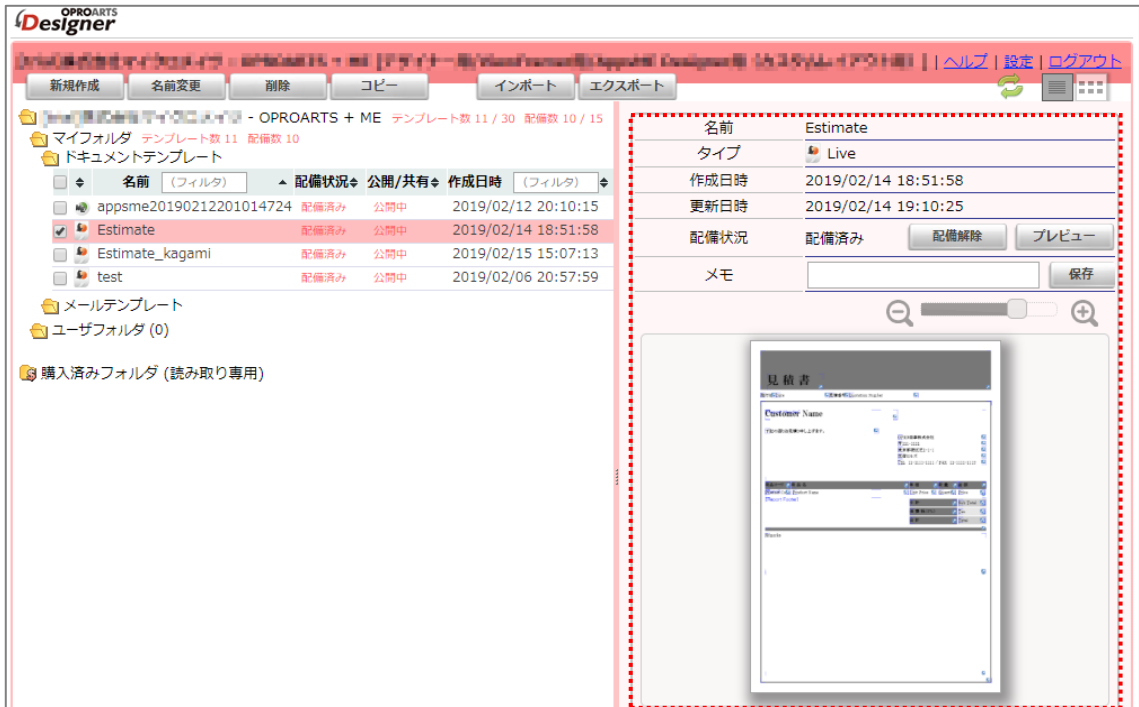
例3：アクティブ化するフィールドを利用して、メールとCloud Printで文書を送信する。（2つのエンベロープを同時に実行する）



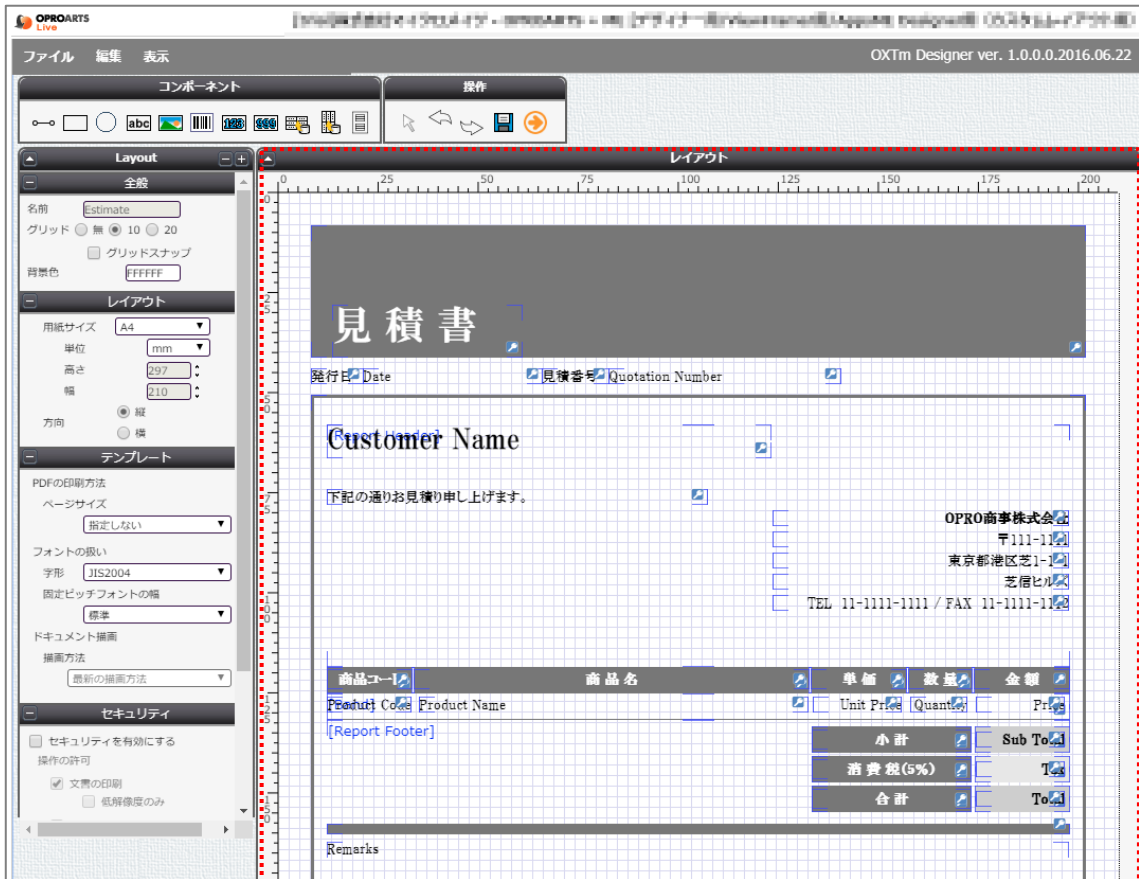
■ テンプレートの設定

次のような帳票テンプレートを準備します。ここでは、「Estimate」という名前でテンプレートを作成します。帳票テンプレートは当社のデザイナーで作成します。詳しくは、[こちら](#)のマニュアルを参照してください。

■ 見積書 (Estimate) : イメージ



■ 見積書 (Estimate) : レイアウト



帳票テンプレートの「CSV マッピング」で定義したフィールドは次のとおりです。

■ CSV 定義 : ページ 向け CSV

The screenshot shows the OXMapper interface for configuring CSV mapping. The main window is titled 'OXMapper ver. 1.0.0.0.2016.09.07'. On the left, the 'CSVマッピング' panel shows a component group with 'ページ' (Page) and 'DTm - Dataset Table' selected. The 'CSV定義' panel on the right is active, showing configuration options for '区切り記号付き' (Delimited) and '固定長' (Fixed length). Below these are options for 'フィールド区切り記号' (Field delimiter), '文字列の引用符' (Text quote character), '先頭行を無視する' (Ignore header), and 'データ出力条件' (Data output condition). A table lists the defined fields:

フィールド名	データタイプ	形式
作成日	date	yyyyMMdd
見積番号	text	
顧客名	text	
備考	text	

■ CSV 定義 : DTm 向け CSV

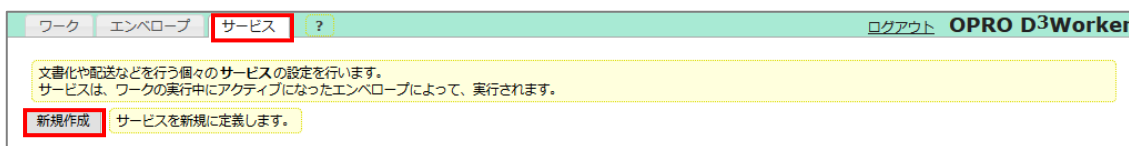
The screenshot shows the OXMapper interface for configuring CSV mapping for the 'DTm' target. The 'CSV定義' panel on the right shows the following field definitions:

フィールド名	データタイプ	形式
商品コード	text	
商品名	text	
単価	number	
数量	number	

■ サービスの設定

次の手順で、OPRPARTS サービスと Cloud Print サービス、メール送信サービスを設定します。

1. OPRPARTS サービスを設定します。[サービス] タブをクリックし、[新規作成] ボタンをクリックします。



2. 画面左の「サービスタイプの選択」で、「OPROARTS」を選択し、「サービスの設定」で次の項目を設定します。

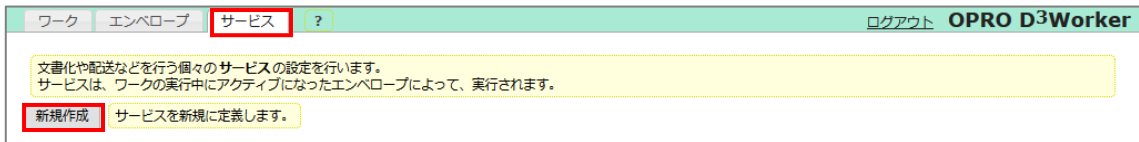


項目名	入力必須	説明
名称	○	「OPROARTS」と入力します。
メモ	-	「OPROARTS を使用してデータを文書化します。」と入力します。
基本情報		
URL	○	次の URL を入力します。 https://www.oproarts.com/Facade 「接続のタイムアウト」は初期値のままとします。

項目名	入力必須	説明
リクエスト内容		
UID	○	契約時に当社が発行し、メールにて送付した OPROARTS 認証情報を入力します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> OPROARTS認証情報 2019/02/12 株式会社オプロ 株式会社オプロ 【認証情報】 CID:XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX <div style="border: 2px dashed red; padding: 2px; margin: 2px 0;"> ◎ドキュメント出力用(LA) UID:XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX UPW:XXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXX </div> 以上 </div>
UPW	○	
ファイル形式	○	「PDF」を選択します。

3. 設定内容に問題がないことを確認し、[保存] ボタンをクリックします。
OPROARTS サービスの設定は完了です。

4. Cloud Print サービスを設定します。[サービス] タブをクリックし、[新規作成] ボタンをクリックします。



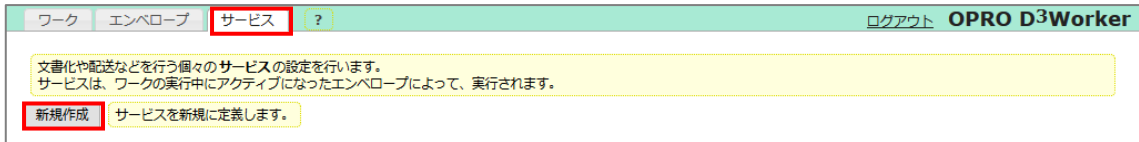
5. 画面左の「サービスタイプの選択」で、「Cloud Print」を選択し、「サービスの設定」で次の項目を設定します。



項目名	入力必須	説明
名称	○	「Cloud Print」と入力します。
メモ	-	「Cloud Print を使用して文書を印刷します。」と入力します。
接続		
URL	○	次の URL を入力します。 https://ext.oproarts.com/ 「接続のタイムアウト」は初期値のままとします。
認証		
UID	○	契約時に当社が発行し、メールにて送付した OPROARTS 認証情報を入力します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> OPROARTS認証情報 2019/02/12 株式会社オプロ 株式会社オプロ 【認証情報】 CID:XXXXXXXXXXXXXXXXX <div style="border: 2px dashed red; padding: 2px;"> ©D3Worker認証用 UID:XXXXXXXXXXXXXXXXX UPW:XXXXXXXXXX </div> 以上 </div>
UPW	○	
印刷		
拠点	○	Cloud Print Proxy インストール時に指定した拠点名を入力します。 ※Cloud Print Proxy のインストール手順については、 こちら のマニュアルを参照してください。
プリンター	○	使用するプリンター名を入力します。 ※プリンター名は Cloud Print 管理コンソール：ログイン後の画面で確認できます。
ストレージ	○	「使用しない」を選択します。

6. 設定内容に問題がないことを確認し、【保存】ボタンをクリックします。Cloud Print サービスの設定は完了です。

7. メール送信サービスを設定します。[サービス] タブをクリックし、[新規作成] ボタンをクリックします。



8. 画面左の「サービスタイプの選択」で、「メール送信」を選択し、「サービスの設定」で次の項目を設定します。



項目名	入力必須	説明
名称	○	「メール送信」と入力します。

項目名	入力必須	説明
メモ	-	「文書が添付されたメールを送信します。」と入力します。
SMTP サーバー		
サーバー	○	ご自身の設定環境の SMTP サーバーを入力します。
ポート	○	ご自身の設定環境のポート番号を入力し、暗号化方式を選択します。
認証	○	「認証」にチェックを付けます。 ユーザ名 : ユーザアカウント名称を入力します。 パスワード : ユーザアカウントに紐づくパスワードを入力します。
メールの内容		
エンコード	-	「UTF-8」を選択します。
To	○	ご自身のメールアドレスを入力します。
Cc	-	入力不要です。
Bcc	-	入力不要です。
From	○	ご自身のメールアドレスを入力します。 「From を EnvelopeFrom に用いる」にチェックを付けます。
Reply-To	-	入力不要です。
件名	○	メールの件名を入力します。
本文	○	メールの本文を入力します。
添付ファイル		
文書の添付	○	「しない」を選択します。
文書データの添付	○	「しない」を選択します。
添付ファイルの ZIP	○	「しない」を選択します。
ZIP パスワード	-	入力不要です。
ZIP パスワードの通知		
通知メール	○	「送信しない」を選択します。
件名	-	入力不要です。
本文	-	入力不要です。

9. 設定内容に問題がないことを確認し、[保存] ボタンをクリックします。メール送信サービスの設定は完了です。

■ エンベロープの設定

次のとおり、メール送信エンベロープと Cloud Print エンベロープを設定します。

1. エンベロープの [基本] タブで、次の項目を設定します。

項目名	入力必須	説明
名称	○	「メール送信エンベロープ」と入力します。
メモ	-	入力不要です。
件名	-	入力不要です。

2. [文書化サービス] タブをクリックし、「文書化サービスの選択」で「OPROARTS」を選択します。

Point

- すべての項目に「サービスの設定を用いる」が初期値で設定されています。ここでは変更不要です。

3. [配送サービス] タブをクリックします。
「配送サービスの選択」で「メール送信」を選択し、[保存] ボタンをクリックします。
メール送信エンベロープの設定は完了です。

Point • すべての項目に初期値「サービスの設定を用いる」が設定されています。ここでは変更不要です。

4. エンベロープの [基本] タブで、次の項目を設定します。

項目名	入力必須	説明
名称	○	「Cloud Print エンベロープ」と入力します。
メモ	-	入力不要です。

項目名	入力必須	説明
件名	-	入力不要です。

5. [文書化サービス] タブをクリックし、「文書化サービスの選択」で「OPROARTS」を選択します。

Point

- すべての項目に「サービスの設定を用いる」が初期値で設定されています。ここでは変更不要です。

6. [配送サービス] タブをクリックします。
「配送サービスの選択」で「Cloud Print」を選択し、[保存] ボタンをクリックします。
Cloud Print エンベロープの設定は完了です。

Point

- すべての項目に「サービスの設定を用いる」が初期値で設定されています。ここでは変更不要です。

■ ワークの設定

次の手順でワークを設定します。

1. ワークの [基本] タブで、次の項目を設定します。

項目名	入力必須	説明
名称	○	「1 送信用ワーク」と入力します。
メモ	-	入力不要です。
件名	-	入力不要です。

2. ワークの [データソース] タブの項目を設定します。
「フィールド名」に、D3Worker を制御するためのキー項目と帳票（見積書）に利用する項目を設定します。

■ ワーク：「1 送信用ワーク」の [データソース] タブ

項目名	入力必須	説明
CSVの形式		
文字コード	○	「シフトJIS」を選択します。
先頭行	-	「データとして使用しない」にチェックを付けます。
フィールド		
フィールド名	○	D3Workerにリクエストする、次のCSVのフィールドを入力します。 フィールド1:「分割キー」 フィールド2:「送信種別」 フィールド3:「作成日」 フィールド4:「見積番号」 フィールド5:「顧客名」 フィールド6:「備考」 フィールド7:「商品コード」 フィールド8:「商品名」 フィールド9:「単価」 フィールド10:「数量」

- ワークの「エンベロープ」タブの項目を設定します。
 「エンベロープフィールド」を選択後、「エンベロープの選択」で「メール送信エンベロープ」と「Cloud Print エンベロープ」を選択します。続いて、「選択済みのエンベロープ」で「アクティブ化するフィールド」と「アクティブ化するフィールド値」を設定します。

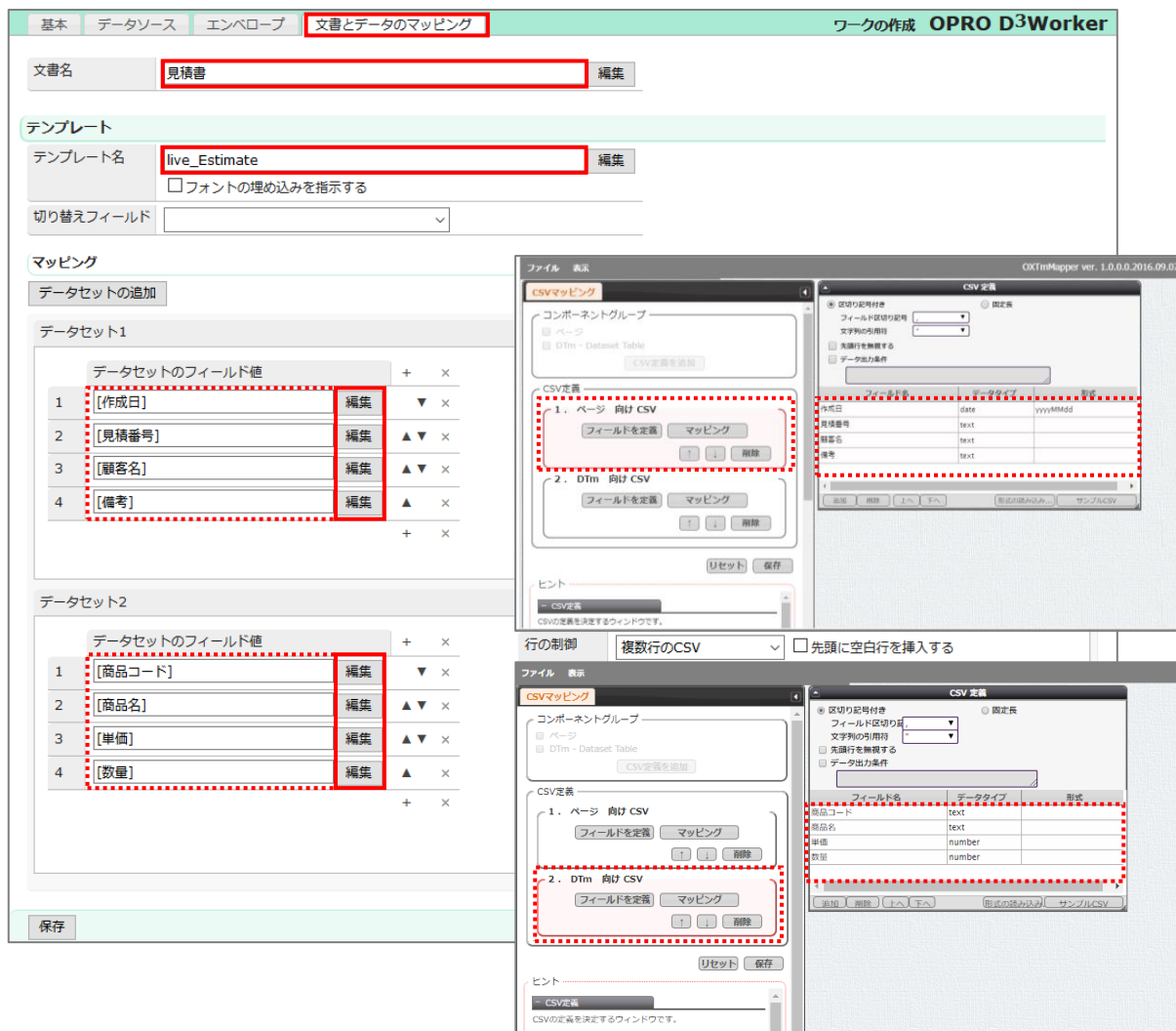
The screenshot shows the 'Envelope' configuration screen in OPRO D3Worker. The 'Envelope Field' is set to 'Separator'. Under 'Selected Envelopes', two envelopes are defined:

- メール送信エンベロープ (Email Send Envelope):**
 - アクティブ化するフィールド (Active Field): 送信種別 (Send Type)
 - アクティブ化するフィールド値 (Active Field Value): mail
- Cloud Printエンベロープ (Cloud Print Envelope):**
 - アクティブ化するフィールド (Active Field): 送信種別 (Send Type)
 - アクティブ化するフィールド値 (Active Field Value): cloudprint

項目名	入力必須	説明
エンベロープフィールド	○	「分割キー」を選択します。
ソートする	-	チェックを付けません。
選択済みのエンベロープ : 「メール送信エンベロープ」		
アクティブ化するフィールド	○	「送信種別」を選択します。
アクティブ化するフィールド値	-	「mail」と入力します。
ELSE として使用する	-	チェックを付けません。
選択済みのエンベロープ : 「Cloud Print エンベロープ」		
アクティブ化するフィールド	○	「送信種別」を選択します。
アクティブ化するフィールド値	-	「cloudprint」と入力します。
ELSE として使用する	-	チェックを付けません。

Point	<ul style="list-style-type: none"> ここでは、ワークの [エンベロープ] タブで「メール送信エンベロープ」と「Cloud Print エンベロープ」の2つを設定します。 上記のような設定をすることで、メール送信と Cloud Print という2つの配送サービスを、振り分けて実行できます。
--------------	--

4. ワークの「文書とデータのマッピング」タブの項目を設定します。

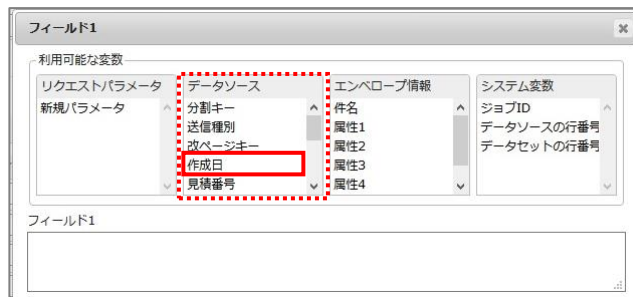


項目名	入力必須	説明
文書名	○	「見積書」と入力します。
テンプレート		
テンプレート名	○	「live_Estimate」と入力します。 ※「5.1.1 つのテンプレートとワークで、送信先を切り替える」で作成したテンプレート「Estimate」を利用します。
フォントの埋め込みを指示する	-	チェックを付けません。
切り替えフィールド	-	入力不要です。
データセット 1		
データセットのフィールド値	○	帳票テンプレート (Estimate) で設定した「ページ向け CSV」のフィールドと同じ順番になるようにします。 [編集] ボタンをクリックして「データソース」から次の順番で選択します。 フィールド 1 : 「[作成日]」 フィールド 2 : 「[見積番号]」 フィールド 3 : 「[顧客名]」 フィールド 4 : 「[備考]」

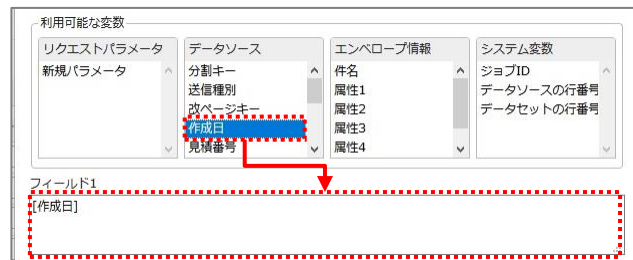
項目名	入力必須	説明
データセット 2		
データセットのフィールド値	○	帳票テンプレート (Estimate) で設定した「DTm 向け CSV」のフィールドと同じ順番になるようにします。 [編集] ボタンをクリックして「データソース」から次の順番で選択します。 フィールド 1 : 「[[商品コード]]」 フィールド 2 : 「[[商品名]]」 フィールド 3 : 「[[単価]]」 フィールド 4 : 「[[数量]]」

Point

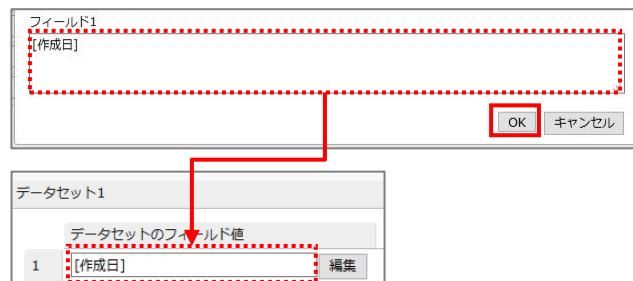
- 「データセットのフィールド値」の編集方法について説明します。
 - フィールド値を編集する行 (ここでは例として 1 行目) にある [編集] ボタンをクリックします。
 - フィールド値編集用の画面が表示されます。
「利用可能な変数」の「データソース」でフィールド値に設定する項目名をダブルクリックします。



- 選択した項目名に「[[]]」を付けた値が「フィールド 1」に入力されます。



- [OK] ボタンをクリックすると、「フィールド 1」の値が「データセットのフィールド値」として設定されます。



5.1.1 メールを1通送信する

メールを1通送信する場合の設定を説明します。

1. 次のような CSV を準備します。

■CSV : 「メール1通送信.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	分割キー	送信種別	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量
2		1 mail	2019/12/23	mt0001	神奈川オフロ	単価が変動している可能性あり	OS0001	オプロシャンプー	400	2
3		1 mail					OS0002	オプロトリートメント	650	2
4		1 mail					OS0003	オプロシャワー	1300	1
5		1 mail					OS0004	オプロ石鹸	400	1
6		1 mail					OS0005	オプロ桶	4000	8

Point

- 準備する CSV の項目の順番（左から右）は、ワークの [データソース] タブで設定したフィールドの順番と一致していなければいけません。

次の2項目（フィールド）が D3Worker を制御するためのキー項目となります。

項目名（フィールド名）	説明
分割キー	エンベロープに連携する単位に、CSV を分割するキーフィールドです。 このフィールドをワークの「エンベロープフィールド」で選択します。 D3Worker は、このフィールドのデータを順番に読み込み、エンベロープをアクティブ化します。
送信種別	有効化するエンベロープを指定するキーフィールドです。 このフィールドをワークのエンベロープ内の「アクティブ化するフィールド」で選択します。 この項目の値が「アクティブ化するフィールド値」と一致した場合、対象のエンベロープが動作します。

2. CSVと「エンベロープ」タブの設定を確認します。

■ CSV : 「メール 1 通送信.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	分割キー	送信種別	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量
2		1:mail	2019/12/23	mt0001	神奈川オフロ	単価が変動している可能性あり	OS0001	オプロシャンプー	400	2
3		1:mail					OS0002	オプロトリートメント	650	2
4		1:mail					OS0003	オプロシャワー	1300	1
5		1:mail					OS0004	オプロ石鹸	400	1
6		1:mail					OS0005	オプロ桶	4000	8

■ ワーク : 「1 送信用ワーク」の「エンベロープ」タブ

The screenshot shows the 'Envelope' configuration window. At the top, the 'Envelope Field' is set to '分割キー'. Below, under 'Selected Envelope', 'メール送信エンベロープ' is chosen. In the 'Active Fields' section for 'メール送信エンベロープ', the 'Active Field' is '送信種別' and its value is 'mail'. The 'Cloud Print Envelope' section is also present but its 'Active Field' is '送信種別' and its value is 'cloudprint', which does not match the 'mail' value from the active field, so it is not active.

Point

- エンベロープフィールドに設定した「分割キー」の値が 1 種類なので、エンベロープが 1 度実行されます。
- アクティブ化するフィールドに設定した「送信種別」の値が、メール送信エンベロープの「アクティブ化するフィールド値」と一致するため、メール送信エンベロープが実行されます。
- アクティブ化するフィールドに設定した「送信種別」の値が、Cloud Print エンベロープの「アクティブ化するフィールド値」と一致しないため、Cloud Print エンベロープは実行されません。

3. ワーク名「1 送信用ワーク」と、ワーク実行時に利用する CSV ファイル「メール 1 通送信.csv」を指定してリクエストすると、見積書が添付されたメールを 1 通送信します。

5.1.2 メールを2通送信する

ワークのエンベロープフィールドを利用して、メールを2通送信する場合の設定を説明します。

1. 次のような CSV を準備します。

■ CSV : 「メール2通送信.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	分割キー	送信種別	作成日	見番番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量
2		1 mail	2019/12/23	mt0001	神奈川オフロ	単価が変更している可能性あり	OS0001	オプロシャンプー	300	8
3		1 mail					OS0002	オプロトリートメント	800	8
4		1 mail					OS0003	オプロシャワー	1300	8
5		1 mail					OS0004	オプロ石鹸	400	8
6		1 mail					OS0005	オプロ桶	4000	8
7		2 mail	2019/12/23	mt0002	鹿児島オフロ	発送が遅れる可能性あり	OS0001	オプロシャンプー	300	4
8		2 mail					OS0002	オプロトリートメント	800	3
9		2 mail					OS0003	オプロシャワー	1300	2
10		2 mail					OS0004	オプロ石鹸	400	10

Point

- 準備する CSV の項目の順番（左から右）は、ワークの [データソース] タブで設定したフィールドの順番と一致していなければいけません。

次の2項目（フィールド）が D3Worker を制御するためのキー項目となります。

項目名（フィールド名）	説明
分割キー	エンベロープに連携する単位に、CSV を分割するキーフィールドです。 D3Worker は、このフィールドのデータを順番に読み込み、エンベロープをアクティブ化します。 データの値が変わったら、次の送信先に配送します。
送信種別	有効化するエンベロープを指定するキーフィールドです。 このフィールドをワークのエンベロープ内の「アクティブ化するフィールド」で選択します。 この項目の値が「アクティブ化するフィールド値」と一致した場合、対象のエンベロープが動作します。

2. CSVと [エンベロープ] タブの設定を確認します。

■ CSV : 「メール 2 通送信.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	分割キー	送信種別	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量
2	1	mail	2019/12/23	mt0001	神奈川オフロ	単価が変更している可能性あり	OS0001	オプロシャンプー	300	8
3	1	mail					OS0002	オプロトリートメント	800	8
4	1	mail					OS0003	オプロシャワー	1300	8
5	1	mail					OS0004	オプロ石鹸	400	8
6	1	mail					OS0005	オプロ桶	4000	8
7	2	mail	2019/12/23	mt0002	鹿児島オフロ	発送が遅れる可能性あり	OS0001	オプロシャンプー	300	4
8	2	mail					OS0002	オプロトリートメント	800	3
9	2	mail					OS0003	オプロシャワー	1300	2
10	2	mail					OS0004	オプロ石鹸	400	10

■ ワーク : 「1 送信用ワーク」の [エンベロープ] タブ

Point

- エンベロープフィールドに設定した「分割キー」の値が 2 種類なので、エンベロープが 2 度実行されます。
- アクティブ化するフィールドに設定した「送信種別」の値が、メール送信エンベロープの「アクティブ化するフィールド値」と一致するため、メール送信エンベロープが実行されます。
- アクティブ化するフィールドに設定した「送信種別」の値が、Cloud Print エンベロープの「アクティブ化するフィールド値」と一致しないため、Cloud Print エンベロープは実行されません。

3. ワーク名「1 送信用ワーク」と、ワーク実行時に利用する CSV ファイル「メール 2 通送信.csv」を指定してリクエストすると、見積書が添付されたメールを 2 通送信します。

5.1.3 メールと Cloud Print を送信する

ワークのアクティブ化するフィールドを利用して、メールと Cloud Print に振り分けて送信します。

1. 次のような CSV を準備します。

■CSV : 「メール_CloudPrint 送信.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	分割キー	送信種別	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量
2		1 mail	2019/12/23	mt0001	神奈川オフロ	単価が変動している可能性あり	OS0001	オプロシャンプー	400	2
3		1 mail					OS0002	オプロトリートメント	650	2
4		1 mail					OS0003	オプロシャワー	1300	1
5		1 mail					OS0004	オプロ石鹸	400	1
6		1 mail					OS0005	オプロ桶	4000	8
7		2 cloudprint	2019/12/23	mt0002	鹿児島オフロ	発送が遅れる可能性あり	OS0001	オプロシャンプー	300	4
8		2 cloudprint					OS0002	オプロトリートメント	800	3
9		2 cloudprint					OS0003	オプロシャワー	1300	2
10		2 cloudprint					OS0004	オプロ石鹸	400	10
11		2 cloudprint					OS0005	オプロ桶	4000	2

Point

- 準備する CSV の項目の順番（左から右）は、ワークの [データソース] タブで設定したフィールドの順番と一致していなければいけません。

次の 2 項目（フィールド）が D3Worker を制御するためのキー項目となります。

項目名（フィールド名）	説明
分割キー	エンベロープに連携する単位に、CSV ファイルを分割するキーフィールドです。 このフィールドをワークの「エンベロープフィールド」で選択します。 D3Worker は、このフィールドのデータを順番に読み込み、エンベロープをアクティブ化します。
送信種別	有効化するエンベロープを指定するキーフィールドです。 このフィールドをワークのエンベロープ内の「アクティブ化するフィールド」で選択します。 この項目の値が「アクティブ化するフィールド値」と一致した場合、対象のエンベロープが動作します。

2. CSVと [エンベロープ] タブの設定を確認します。

■ CSV : 「メール_CloudPrint 送信.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	分割キー	送信種別	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量
2	1	mail	2019/12/23	mt0001	神奈川オフロ	単価が変動している可能性があります	OS0001	オプロシャンプー	400	2
3	1	mail					OS0002	オプロトリートメント	650	2
4	1	mail					OS0003	オプロシャワー	1300	1
5	1	mail					OS0004	オプロ石鹸	400	1
6	1	mail					OS0005	オプロ桶	4000	8
7	2	cloudprint	2019/12/23	mt0002	鹿児島オフロ	発送が遅れる可能性があります	OS0001	オプロシャンプー	300	4
8	2	cloudprint					OS0002	オプロトリートメント	800	3
9	2	cloudprint					OS0003	オプロシャワー	1300	2
10	2	cloudprint					OS0004	オプロ石鹸	400	10
11	2	cloudprint					OS0005	オプロ桶	4000	2

■ ワーク : 「1 送信用ワーク」の [エンベロープ] タブ

Point

- エンベロープフィールドに設定した「分割キー」の値が 2 種類なので、エンベロープが 2 度実行されます。
- 「分割キー」の値が「1」の行の、アクティブ化するフィールドに設定した「送信種別」の値が、メール送信エンベロープの「アクティブ化するフィールド値」と一致するため、メール送信エンベロープが 1 度実行されます。
- 「分割キー」の値が「2」の行の、アクティブ化するフィールドに設定した「送信種別」の値が、Cloud Print エンベロープの「アクティブ化するフィールド値」と一致するため、Cloud Print エンベロープが 1 度実行されます。

3. ワーク名「1 送信用ワーク」と、ワーク実行時に利用する CSV ファイル「メール_CloudPrint 送信.csv」を指定してリクエストすると、見積書が添付されたメールを送信し、Cloud Print サービスに設定されたプリンターから印刷します。

5.2 マルチテンプレートで送信する

ワークのテンプレート情報を設定することで、文書のテンプレートを切り替えて配信します。
次の例を説明します。

例：

テンプレート名を動的に指定し、見積書鏡（Estimate_kagami）を出力後、見積書（Estimate）を出力する。



■ テンプレートの設定

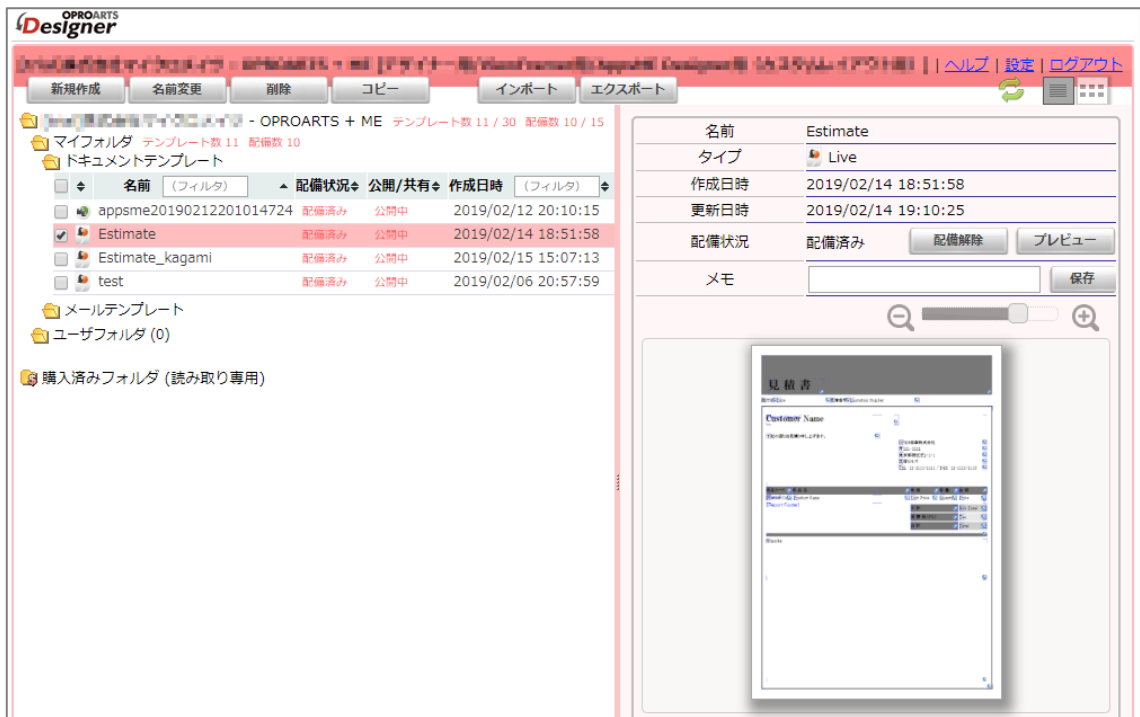
次のような帳票テンプレート：見積書鏡（Estimate_kagami）と見積書（Estimate）を準備します。
帳票テンプレートは当社のデザイナーで作成します。詳しくは、[こちら](#)のマニュアルを参照してください。

■ 見積書鏡（Estimate_kagami）：イメージ

名前	配備状況	公開/共有	作成日時
appsme20190212201014724	配備済み	公開中	2019/02/12 20:10:15
Estimate	配備済み	公開中	2019/02/14 18:51:58
Estimate_kagami	配備済み	公開中	2019/02/15 15:07:13
test	配備済み	公開中	2019/02/06 20:57:59

名前	Estimate_kagami
タイプ	Live
作成日時	2019/02/15 15:07:13
更新日時	2019/02/15 15:18:04
配備状況	配備済み 配備解除 プレビュー
メモ	<input type="text"/> 保存

■見積書 (Estimate) : イメージ



■ ワークの設定

次の手順でワークを設定します。

1. ワークの [基本] タブで、次の項目を設定します。



項目名	入力必須	説明
名称	○	「2 鏡ページ付き帳票メール送信用ワーク」と入力します。
メモ	-	入力不要です。
件名	-	入力不要です。

2. ワークの [データソース] タブの項目を設定します。
「フィールド名」に、D3Worker を制御するためのキー項目と帳票（見積書鏡、見積書）に利用する項目を設定します。

■ CSV : 「マルチテンプレート.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	分割キー	送信種別	切り替えキー	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量
2	1 mail	Estimate	Estimate_kagami	1905/7/11	mt0001	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	2
3	1 mail	Estimate						OS002	オプロトリートメント	650	2
4	1 mail	Estimate						OS003	オプロシャワー	40000	1
5	1 mail	Estimate						OS004	オプロ石鹸	48	1

■ ワーク : 「2 鏡ページ付き帳票メール送信用ワーク」の [データソース] タブ

ワークの作成 OPRO D3Worker

基本 **データソース** エンベローブ 文書とデータのマッピング

CSVの形式

文字コード
 先頭行 データとして使用しない

フィールド

フィールド名	+	×
1 分割キー	▼	×
2 送信種別	▲▼	×
3 切り替えキー	▲▼	×
4 作成日	▲▼	×
5 見積番号	▲▼	×
6 顧客名	▲▼	×
7 備考	▲▼	×
8 商品コード	▲▼	×
9 商品名	▲▼	×
10 単価	▲▼	×
11 数量	▲	×

一括追加

追加するフィールド数

フィールドの読み込み

ここにCSVファイルをドロップしてください。
先頭行をフィールド名として読み込みます。

ファイルが選択されていません。

項目名	入力必須	説明
CSV の形式		
文字コード	○	「シフトJIS」を選択します。
先頭行	-	「データとして使用しない」にチェックを付けます。
フィールド		
フィールド名	○	D3Worker にリクエストする、次の CSV のフィールドを入力します。 フィールド 1 : 「分割キー」 フィールド 2 : 「送信種別」 フィールド 3 : 「切り替えキー」 フィールド 4 : 「作成日」 フィールド 5 : 「見積番号」 フィールド 6 : 「顧客名」 フィールド 7 : 「備考」 フィールド 8 : 「商品コード」 フィールド 9 : 「商品名」 フィールド 10 : 「単価」 フィールド 11 : 「数量」

- ワークの [エンベロープ] タブの項目を設定します。
「エンベロープフィールド」を選択後、「エンベロープの選択」で「メール送信エンベロープ」を選択します。
続いて、「選択済みのエンベロープ」で「メール送信エンベロープ」の「アクティブ化するフィールド」を設定します。

■ CSV : 「マルチテンプレート.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	分割キー	送信種別	切り替えキー	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量
2	1	mail	Estimate_kagami			神奈川オプロ					
3	1	mail	Estimate	1905/7/11	mt0001	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	2
4	1	mail	Estimate					OS002	オプロトリートメント	650	2
5	1	mail	Estimate					OS003	オプロシャワー	40000	1
6	1	mail	Estimate					OS004	オプロ石鹸	48	1

■ ワーク : 「2 鏡ページ付き帳票メール送信用ワーク」の [エンベロープ] タブ

項目名	入力必須	説明
エンベロープフィールド	○	「分割キー」を選択します。
ソートする	-	チェックを付けません。
選択済みのエンベロープ : 「メール送信エンベロープ」		
アクティブ化するフィールド	○	「送信種別」を選択します。
アクティブ化するフィールド値	-	入力不要です。
ELSE として使用する	-	チェックを付けます。

4. ワークの【文書とデータのマッピング】タブの項目を設定します。

■ CSV : 「マルチテンプレート.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	
1	分割キー	送信種別	切り替えキー	作成日	見積番号	顧客名	備考		商品コード	商品名	単価	数量
2		1 mail	Estimate_kagami			神奈川オプロ						
3		1 mail	Estimate	1905/7/11	mt0001	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー		400	2
4		1 mail	Estimate					OS002	オプロトリートメント		650	2
5		1 mail	Estimate					OS003	オプロシャワー		40000	1
6		1 mail	Estimate					OS004	オプロ石鹸		48	1

■ ワーク : 「2 鏡ページ付き帳票メール送信用ワーク」の【文書とデータのマッピング】タブ

The screenshot displays the OXIMapper software interface for configuring document and data mapping. The main window shows the 'Document and Data Mapping' tab with the following settings:

- Document Name:** 見積書
- Template Name:** live_[切り替えキー]
- Font Embedding:** フォントの埋め込みを指示する
- Mapping:**
 - データセット1:**
 - 1. [作成日] (編集)
 - 2. [見積番号] (編集)
 - 3. [顧客名] (編集)
 - 4. [備考] (編集)
 - データセット2:**
 - 1. [商品コード] (編集)
 - 2. [商品名] (編集)
 - 3. [単価] (編集)
 - 4. [数量] (編集)

Two inset windows show the 'CSV Mapping' dialog boxes:

- CSV Mapping (Page):** Shows mappings for '1. ページ 向け CSV' and '2. DTM 向け CSV'.
- CSV Mapping (DTM):** Shows mappings for 'Product Code', '商品名', '単価', and '数量'.

項目名	入力必須	説明
文書名	○	「見積書」と入力します。
テンプレート		
テンプレート名	○	「live_[切り替えキー]」と入力します。 ※「Live」で作成した帳票テンプレート名を動的に指定します。
フォントの埋め込みを指示する	-	チェックを付けません。

項目名	入力必須	説明
切り替えフィールド	-	入力不要です。
データセット 1		
データセットのフィールド値	○	帳票テンプレート (Estimate_kagami, Estimate) で設定した「ページ向け CSV」のフィールドと同じ順番になるようにします。 [編集] ボタンをクリックして「データソース」から次の順番で選択します。 フィールド 1 : 「[作成日]」 フィールド 2 : 「[見積番号]」 フィールド 3 : 「[顧客名]」 フィールド 4 : 「[備考]」
データセット 2		
データセットのフィールド値	○	帳票テンプレート (Estimate) で設定した「DTm 向け CSV」のフィールドと同じ順番になるようにします。 [編集] ボタンをクリックして「データソース」から次の順番で選択します。 フィールド 1 : 「[商品コード]」 フィールド 2 : 「[商品名]」 フィールド 3 : 「[単価]」 フィールド 4 : 「[数量]」

■ CSV の準備と確認

1. 次のような CSV を準備します。

■ CSV : 「マルチテンプレート.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	分割キー	送信種別	切り替えキー	作成日	見積番号	顧客名	備考				
2		1 mail	Estimate_kagami			神奈川オプロ					
3		1 mail	Estimate	1905/7/11	mt0001	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	2
4		1 mail	Estimate					OS002	オプロトリートメント	650	2
5		1 mail	Estimate					OS003	オプロシャワー	40000	1
6		1 mail	Estimate					OS004	オプロ石鹸	48	1

Point

- 準備する CSV の項目の順番 (左から右) は、ワークの [データソース] タブで設定したフィールドの順番と一致していなければいけません。

次の 3 項目 (フィールド) が D3Worker を制御するためのキー項目となります。

項目名 (フィールド名)	説明
分割キー	エンベロープに連携する単位に、CSV を分割するキーフィールドです。 D3Worker は、このフィールドのデータを順番に読み込み、エンベロープをアクティブ化します。 データの値が変わったら、次の送信先に配送します。
送信種別	有効化するエンベロープを指定するキーフィールドです。 このフィールドをワークのエンベロープ内の「アクティブ化するフィールド」で選択します。 この項目の値が「アクティブ化するフィールド値」と一致した場合、対象のエンベロープが動作します。
切り替えキー	利用するテンプレートを選択するキーフィールドです。

2. CSVと「エンベロープ」タブの設定を確認します。

■ CSV : 「マルチテンプレート.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	分割キー	送信種別	切り替えキー	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量
2		1@mail	Estimate_kagami			神奈川オプロ					
3		1@mail	Estimate	1905/7/11	mt0001	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	2
4		1@mail	Estimate					OS002	オプロトリートメント	650	2
5		1@mail	Estimate					OS003	オプロシャワー	40000	1
6		1@mail	Estimate					OS004	オプロ石鹸	48	1

■ ワーク : 「2 鏡ページ付き帳票メール送信用ワーク」の「エンベロープ」タブ

Point

- エンベロープフィールドに設定した「分割キー」の値が 1 種類なので、エンベロープが 1 度実行されます。
- 「メール送信エンベロープ」に「ELSE として使用する」を設定しており、他に実行するエンベロープがないため、「メール送信エンベロープ」が実行されます。
- テンプレート名に指定した「切り替えフィールド」の値によって、利用するテンプレートを切り替えます。
- 1 行目は「Estimate_kagami」テンプレート、2 行目以降は「Estimate」テンプレートを利用して、1 つの PDF ファイルを作成します

3. ワーク名「2 鏡ページ付き帳票メール送信用ワーク」と、ワーク実行時に使用する CSV ファイル「マルチテンプレート.csv」を指定してリクエストすると、見積書鏡と見積書が添付されたメールを送信します。

5.3 切り替えフィールドによるマルチテンプレートで送信する

CSVとワークのテンプレート情報を設定することで、文書のテンプレートを切り替えて配信します。次の例を説明します。

例：

「切り替えフィールド」をワークに設定して、見積書（Estimate）を出力する。



■ ワークの設定

次の手順でワークを設定します。

1. ワークの [基本] タブで、次の項目を設定します。

The screenshot shows the 'ワークの作成 OPRO D3Worker' interface. The '基本' (Basic) tab is active. The '名称' (Name) field is highlighted with a red box and contains the text '3マルチテンプレート用ワーク'. The 'メモ' (Memo) field is empty. The '件名' (Subject) field is also empty, with a '編集' (Edit) button next to it.

項目名	入力必須	説明
名称	○	「3 マルチテンプレート用ワーク」と入力します。
メモ	-	入力不要です。
件名	-	入力不要です。

2. ワークの [データソース] タブの項目を設定します。
「フィールド名」に、D3Worker を制御するためのキー項目と帳票（見積書）に利用する項目を設定します。

■ CSV : 「切り替えフィールド.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	分割キー	送信種別	切り替えキー	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量
2		1 mail	1	1905/7/11	mt0001	神奈川オプロ	単価が変動している可能性があります	OS001	オプロシャワー	400	2
3		1 mail	1					OS002	オプロトリートメント	650	2
4		1 mail	1					OS003	オプロシャワー	40000	1
5		1 mail	2	1905/8/11	mt0002	神奈川オプロ	単価が変動している可能性があります	OS001	オプロシャワー	400	4
6		1 mail	2					OS002	オプロトリートメント	650	8
7		1 mail	2					OS003	オプロシャワー	40000	8

■ ワーク : 「3 マルチテンプレート用ワーク」の [データソース] タブ

ワークの作成 OPRO D3Worker

基本 **データソース** エンベロープ 文書とデータのマッピング

CSVの形式

文字コード シフトJIS

先頭行 データとして使用しない

フィールド

フィールド名	+	×
1 分割キー	▼	×
2 送信種別	▲▼	×
3 切り替えキー	▲▼	×
4 作成日	▲▼	×
5 見積番号	▲▼	×
6 顧客名	▲▼	×
7 備考	▲▼	×
8 商品コード	▲▼	×
9 商品名	▲▼	×
10 単価	▲▼	×
11 数量	▲	×

一括追加

追加するフィールド数 追加

フィールドの読み込み

ここにCSVファイルをドロップしてください。
先頭行をフィールド名として読み込みます。

参照... ファイルが選択されていません。

キャンセル 実行

項目名	入力必須	説明
CSV の形式		
文字コード	○	「シフトJIS」を選択します。
先頭行	-	「データとして使用しない」にチェックを付けます。
フィールド		
フィールド名	○	D3Worker にリクエストする、次の CSV のフィールドを入力します。 フィールド 1 : 「分割キー」 フィールド 2 : 「送信種別」 フィールド 3 : 「切り替えキー」 フィールド 4 : 「作成日」 フィールド 5 : 「見積番号」 フィールド 6 : 「顧客名」 フィールド 7 : 「備考」 フィールド 8 : 「商品コード」 フィールド 9 : 「商品名」 フィールド 10 : 「単価」 フィールド 11 : 「数量」

3. ワークの [エンベロープ] タブの項目を設定します。
 「エンベロープフィールド」を選択後、「エンベロープの選択」で「メール送信エンベロープ」を選択します。
 続いて、「選択済みのエンベロープ」で「メール送信エンベロープ」の「アクティブ化するフィールド」を設定します。

■ CSV : 「切り替えフィールド.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	分割キー	送信種別	切り替えキー	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量
2		1mail	1	1905/7/11	mt0001	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	2
3		1mail	1					OS002	オプロトリートメント	650	2
4		1mail	1					OS003	オプロシャワー	40000	1
5		1mail	2	1905/8/11	mt0002	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	4
6		1mail	2					OS002	オプロトリートメント	650	8
7		1mail	2					OS003	オプロシャワー	40000	8

■ ワーク : 「3 マルチテンプレート用ワーク」の [エンベロープ] タブ

The screenshot shows the configuration for the 'Envelope' tab. The 'Envelope Field' is set to '分割キー'. Under 'Selected Envelope', 'メール送信エンベロープ' is chosen. In the 'Active Fields' section for this envelope, '送信種別' is selected, and the checkbox 'ELSEとして使用する' is checked.

項目名	入力必須	説明
エンベロープフィールド	○	「分割キー」を選択します。
ソートする	-	チェックを付けません。
選択済みのエンベロープ : 「メール送信エンベロープ」		
アクティブ化するフィールド	○	「送信種別」を選択します。
アクティブ化するフィールド値	-	入力不要です。
ELSE として使用する	-	チェックを付けます。

4. ワークの【文書とデータのマッピング】タブの項目を設定します。

■ CSV : 「切り替えフィールド.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	
1	分割キー	送信種別	切り替えキー	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量	
2		1 mail		1	1905/7/11	mt0001	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	2
3		1 mail		1					OS002	オプロトリートメント	650	2
4		1 mail		1					OS003	オプロシャワー	40000	1
5		1 mail		2	1905/8/11	mt0002	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	4
6		1 mail		2					OS002	オプロトリートメント	650	8
7		1 mail		2					OS003	オプロシャワー	40000	8

■ ワーク : 「3 マルチテンプレート用ワーク」の【文書とデータのマッピング】タブ

項目名	入力必須	説明
文書名	○	「見積書」と入力します。
テンプレート名	○	「live_Estimate」と入力します。 ※「5.1 1 つのテンプレートとワークで、送信先を切り替える」で作成したテンプレート「Estimate」を利用します。

項目名	入力必須	説明
フォントの埋め込みを指示する	-	チェックを付けません。
切り替えフィールド	-	「切り替えキー」を選択します。
データセット 1		
データセットのフィールド値	○	帳票テンプレート (Estimate) で設定した「ページ向け CSV」のフィールドと同じ順番になるようにします。 [編集] ボタンをクリックして「データソース」から次の順番で選択します。 フィールド 1 : 「[作成日]」 フィールド 2 : 「[見積番号]」 フィールド 3 : 「[顧客名]」 フィールド 4 : 「[備考]」
データセット 2		
データセットのフィールド値	○	帳票テンプレート (Estimate) で設定した「DTm 向け CSV」のフィールドと同じ順番になるようにします。 [編集] ボタンをクリックして「データソース」から次の順番で選択します。 フィールド 1 : 「[商品コード]」 フィールド 2 : 「[商品名]」 フィールド 3 : 「[単価]」 フィールド 4 : 「[数量]」

Point

- ・ [文書とデータのマッピング] タブの「切り替えフィールド」に「切り替えキー」を指定すると、「切り替えキー」の値が変わったところで改ページします。

■ CSV の準備と確認

1. 次のような CSV を準備します。

■ CSV : 「切り替えフィールド.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	
1	分割キー	送信種別	切り替えキー	作成日	見積番号	顧客名	備考		商品コード	商品名	単価	数量
2		1 mail	1	1905/7/11	mt0001	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	2	
3		1 mail	1					OS002	オプロトリートメント	650	2	
4		1 mail	1					OS003	オプロシャワー	40000	1	
5		1 mail	2	1905/8/11	mt0002	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	4	
6		1 mail	2					OS002	オプロトリートメント	650	8	
7		1 mail	2					OS003	オプロシャワー	40000	8	

Point

- ・ 準備する CSV の項目の順番 (左から右) は、ワークの [データソース] タブで設定したフィールドの順番と一致していなければいけません。

次の 3 項目 (フィールド) が D3Worker を制御するためのキー項目となります。

項目名 (フィールド名)	説明
分割キー	エンベロープに連携する単位に、CSV を分割するキーフィールドです。 D3Worker は、このフィールドのデータを順番に読み込み、エンベロープをアクティブ化します。 データの値が変わったら、次の送信先に配送します。
送信種別	有効化するエンベロープを指定するキーフィールドです。 このフィールドをワークのエンベロープ内の「アクティブ化するフィールド」で選択します。 この項目の値が「アクティブ化するフィールド値」と一致した場合、対象のエンベロープが動作します。
切り替えキー	文書を改ページするキーフィールドです。

2. CSVと「エンベロープ」タブの設定を確認します。

■ CSV : 「切り替えフィールド.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	
1	分割キー	送信種別	切り替えキー	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量	
2		1:mail		1	1905/7/11	mt0001	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	2
3		1:mail							OS002	オプロトリートメント	650	2
4		1:mail							OS003	オプロシャワー	40000	1
5		1:mail		2	1905/8/11	mt0002	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	4
6		1:mail							OS002	オプロトリートメント	650	8
7		1:mail							OS003	オプロシャワー	40000	8

■ ワーク : 「3 マルチテンプレート用ワーク」の「エンベロープ」タブ

The screenshot shows the configuration for the 'Envelope' tab. The 'Envelope Field' is set to '分割キー'. Under 'Selected Envelope', 'メール送信エンベロープ' is chosen. A sub-window for 'メール送信エンベロープ' is open, showing '送信種別' as the active field and 'ELSEとして使用する' checked.

Point

- エンベロープフィールドに設定した「分割キー」の値が 1 種類なので、エンベロープが 1 度実行されます。
- 「メール送信エンベロープ」に「ELSE として使用する」を設定しており、他に実行するエンベロープがないため、「メール送信エンベロープ」が実行されます。
- 「切り替えフィールド」に指定した切り替えキーの値が変わったタイミングで、改ページを行います。

3. 作成したワーク「3 マルチテンプレート用ワーク」を作成した CSV を指定してリクエストすると、切り替えキーで改ページした見積書が添付されたメールを送信します。

5.4 複数回文書化して送信する

文書名を複数指定することで、複数回文書化して送信します。
次の例を説明します。

例：

ワークの文書名を動的に指定し、見積書（Estimate）を複数回出力する。



■ ワークの設定

次の手順でワークを設定します。

1. ワークの [基本] タブで、次の項目を設定します。

基本	データソース	エンベロープ	文書とデータのマッピング	ワークの作成 OPRO D ³ Worker
名称	<input type="text" value="4複数文書送信用ワーク"/>			
メモ	<input type="text"/>			
件名	<input type="text"/>	<input type="button" value="編集"/>		

項目名	入力必須	説明
名称	○	「4 複数文書送信用ワーク」と入力します。
メモ	-	入力不要です。
件名	-	入力不要です。

2. ワークの [データソース] タブの項目を設定します。
「フィールド名」に、D3Worker を制御するためのキー項目と帳票（見積書）に利用する項目を設定します。

■ CSV ファイル：「複数回文書化.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	分割キー	送信種別	切り替えキー	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量
2		1 mail	1	1905/7/11	mt0001	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャワー	400	2
3		1 mail	1					OS002	オプロトリートメント	650	2
4		1 mail	1					OS003	オプロシャワー	40000	1
5		1 mail	2	1905/8/11	mt0002	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャワー	400	4
6		1 mail	2					OS002	オプロトリートメント	650	8
7		1 mail	2					OS003	オプロシャワー	40000	8

■ ワーク：「4 複数文書送信用ワーク」の [データソース] タブ

項目名	入力必須	説明
CSV の形式		
文字コード	○	「シフト JIS」を選択します。
先頭行	-	「データとして使用しない」にチェックを付けます。
フィールド		
フィールド名	○	D3Worker にリクエストする、次の CSV のフィールドを入力します。 フィールド 1：「分割キー」 フィールド 2：「送信種別」 フィールド 3：「切り替えキー」 フィールド 4：「作成日」 フィールド 5：「見積番号」 フィールド 6：「顧客名」 フィールド 7：「備考」 フィールド 8：「商品コード」 フィールド 9：「商品名」 フィールド 10：「単価」 フィールド 11：「数量」

- ワークの [エンベロープ] タブの項目を設定します。
「エンベロープフィールド」を選択後、「エンベロープの選択」で「メール送信エンベロープ」を選択します。
続いて、「選択済みのエンベロープ」で「メール送信エンベロープ」の「アクティブ化するフィールド」を設定します。

■ CSV : 「複数回文書化.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	分割キー	送信種別	切り替えキー	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量
2	1	mail	1	1905/7/11	mt0001	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	2
3	1	mail	1					OS002	オプロトリートメント	650	2
4	1	mail	1					OS003	オプロシャワー	40000	1
5	1	mail	2	1905/8/11	mt0002	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	4
6	1	mail	2					OS002	オプロトリートメント	650	8
7	1	mail	2					OS003	オプロシャワー	40000	8

■ ワーク : 「4 複数文書送信用ワーク」の [エンベロープ] タブ

項目名	入力必須	説明
エンベロープフィールド	○	「分割キー」を選択します。
ソートする	-	チェックを付けません。
選択済みのエンベロープ : 「メール送信エンベロープ」		
アクティブ化するフィールド	○	「送信種別」を選択します。
アクティブ化するフィールド値	-	入力不要です。
ELSE として使用する	-	チェックを付けます。

4. ワークの「文書とデータのマッピング」タブの項目を設定します。

■CSV : 「複数回文書化.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	分割キー	送信種別	切り替えキー	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量
2		1 mail		1905/7/11	mt0001	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	2
3		1 mail						OS002	オプロトリートメント	650	2
4		1 mail						OS003	オプロシャワー	40000	1
5		1 mail		1905/8/11	mt0002	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	4
6		1 mail						OS002	オプロトリートメント	650	8
7		1 mail						OS003	オプロシャワー	40000	8

■ワーク : 「4 複数文書送信ワーク」の「文書とデータのマッピング」タブ

The screenshot displays the 'Document and Data Mapping' configuration screen. Key elements include:

- Document Name:** 切り替えキー
- Template Name:** live_Estimate
- Mapping Section:**
 - データセット1:** Fields include 作成日, 見積番号, 顧客名, 備考.
 - データセット2:** Fields include 商品コード, 商品名, 単価, 数量.
- CSV Mapping Inset Windows:**
 - Group 1: ページ向け CSV (Page-oriented CSV)
 - Group 2: DTM 向け CSV (DTM-oriented CSV)

項目名	入力必須	説明
文書名	○	「切り替えキー」と入力します。 ※出力する PDF のファイル名を動的に指定します。
テンプレート		
テンプレート名	○	「live_Estimate」と入力します。 ※「5.1 1 つのテンプレートとワークで、送信先を切り替える」で作成したテンプレート「Estimate」を利用します。
フォントの埋め込みを指示する	-	チェックを付けません。

項目名	入力必須	説明
切り替えフィールド	-	入力不要です。
データセット 1		
データセットのフィールド値	○	帳票テンプレート (Estimate) で設定した「ページ向け CSV」のフィールドと同じ順番になるようにします。 [編集] ボタンをクリックして「データソース」から次の順番で選択します。 フィールド 1 : 「[作成日]」 フィールド 2 : 「[見積番号]」 フィールド 3 : 「[顧客名]」 フィールド 4 : 「[備考]」
データセット 2		
データセットのフィールド値	○	帳票テンプレート (Estimate) で設定した「DTm 向け CSV」のフィールドと同じ順番になるようにします。 [編集] ボタンをクリックして「データソース」から次の順番で選択します。 フィールド 1 : 「[商品コード]」 フィールド 2 : 「[商品名]」 フィールド 3 : 「[単価]」 フィールド 4 : 「[数量]」

■ CSV の準備と確認

1. 次のような CSV を準備します。

■ CSV : 「複数回文書化.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	分割キー	送信種別	切り替えキー	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量
2		1 mail		1905/7/11	mt0001	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	2
3		1 mail						OS002	オプロリートメント	650	2
4		1 mail						OS003	オプロシャワー	40000	1
5		1 mail		1905/8/11	mt0002	神奈川オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	4
6		1 mail						OS002	オプロリートメント	650	8
7		1 mail						OS003	オプロシャワー	40000	8

Point	<ul style="list-style-type: none"> 準備する CSV の項目の順番 (左から右) は、ワークの [データソース] タブで設定したフィールドの順番と一致していなければいけません。
--------------	--

次の 3 項目 (フィールド) が D3Worker を制御するためのキー項目となります。

項目名 (フィールド名)	説明
分割キー	エンベロープに連携する単位に、CSV を分割するキーフィールドです。 このフィールドをワークの「エンベロープフィールド」で選択します。 D3Worker は、このフィールドのデータを順番に読み込み、エンベロープをアクティブ化します。
送信種別	有効化するエンベロープを指定するキーフィールドです。 このフィールドを、ワークのエンベロープ内の「アクティブ化するフィールド」で選択します。 この項目の値が「アクティブ化するフィールド値」と一致した場合、対象のエンベロープが動作します。
切り替えキー	文書をファイル単位に分割するキーフィールドです。

2. CSVと「エンベロープ」タブの設定を確認します。

■ CSV : 「複数回文書化.csv」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	
1	分割キー	送信種別	切り替えキー	作成日	見積番号	顧客名	備考	商品コード	商品名	単価	数量	
2		1:mail		1	1905/7/11	mt0001	神奈川県オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	2
3		1:mail		1					OS002	オプロトリートメント	650	2
4		1:mail		1					OS003	オプロシャワー	40000	1
5		1:mail		2	1905/8/11	mt0002	神奈川県オプロ	単価が変動している可能性あり	OS001	オプロシャンプー	400	4
6		1:mail		2					OS002	オプロトリートメント	650	8
7		1:mail		2					OS003	オプロシャワー	40000	8

■ ワーク : 「4 複数文書送信用ワーク」の「エンベロープ」タブ

The screenshot shows the 'Envelope' configuration window. At the top, the 'Envelope Field' is set to '分割キー'. Below, under 'Selected Envelope', 'メール送信エンベロープ' is chosen. In the 'Active Fields' section, '送信種別' is selected. At the bottom, the 'ELSE' checkbox is checked, indicating it will be used as the default envelope.

Point

- エンベロープフィールドに設定した「分割キー」の値が 1 種類なので、エンベロープが 1 度実行されます。
- 「メール送信エンベロープ」に「ELSE として使用する」を設定しており、他に実行するエンベロープがないため、「メール送信エンベロープ」が実行されます。
- 文書名に指定した「切り替えフィールド」の値によって出力ファイルを分割し、2つの PDF ファイルが生成されます。
- 1~3 行目は「1.pdf」、4~6 行目は「2.pdf」というファイル名で PDF が生成されます。

3. ワーク実行時に利用する CSV ファイルでリクエストすると、2つのファイルが添付されたメールが 1 通送信されます。



D3Worker 操作マニュアル



発行元 株式会社オプロ